

後続への意志¹⁾

——国立療養所大島青松園での逐次刊行物のその後——

阿部安成（本学部教員）

石居人也（町田市立自由民権資料館学芸員）

はじめに

（阿部）

大島での逐次刊行物 1909年に香川県木田郡庵治村の大島に設置された第四区療養所は、1907年公布、1909年施行の法律第11号「癩予防ニ関スル件」にもとづいて、「癩」と診断されたものたちを隔離した施設である。その後、大島療養所、ついで国立療養所大島青松園とその名称をかえた療養所内で、かつて、少なくとも3つの逐次刊行物が長期にわたって発行されていた。創刊年の古い順にあげると、キリスト教信徒たちの霊交会が発行した『霊交』（1919年創刊～1940年12月廃刊）、青年団や自治会が編集や発行を担った『報知大島』（1932年3月創刊～1936年4月発行分まで保存）、モシオ社（のちに大島青松園慰安会）による『藻汐草』（1932年4月創刊～1944年6月休刊）、である。

現在、『霊交』と『報知大島』は、ともにキリスト教霊交会教会堂の図書室で保管され、前者についてはいくつかの欠号があるもののその多くが確認され、いまのところひとまとまりしかみつかっていない後者は、保存分はすべてガリ版刷りで、印刷機で刷られたという1936年11月以降のそれ

¹⁾ 本稿は2009年度財団法人福武学術文化振興財団瀬戸内海文化研究・活動支援調査・研究助成による研究題目「瀬戸内海域のハンセン病療養所における情報集積と交流」の成果の一部で、2009年4月から7月にかけての調査報告である。調査には研究協力者の石居も同行した。なおこの調査中の6月に大島のキリスト教霊交会信徒のおひとりが亡くなった。その方とはいっしょに食事をする機会が2度あった。だが認知症が進行していたという彼はわたしのことをわかっていなかったとおもう。その彼がかつて入園したてのところに描いた水彩画を後述する『青松』のなかにゆくりなくも2枚みつけた。デジタルカメラで撮影してカラープリントした絵を送付したところ故人の三十日記念会で祭壇に置かれたという。1枚はどこかの山道、それよりもあとに描かれたもう1枚はおそらく大島からみた瀬戸内海の風景だった。8月の調査のときに霊交会の方々と食事をする機会があり、みなで故人を偲んだ。

はみつかっていない²⁾。『藻汐草』は、巻号表記にしたがえば発行されたそのすべてが、「大島青松園創立 50 周年記念合本」として 10 分冊に製本されて、大島青松園入所者自治会編集室にある³⁾。

『報知大島』は自治会創設 1 周年のころに創刊された⁴⁾。自治活動の一環として刊行された機関紙は、いつの時点でかその所在や保管が忘れられてしまい、自治会が発行したみずからの歴史書である『閉ざされた島の昭和史—国立療養所大島青松園入園者自治会五十年史』（大島青松園入園者自治会編、大島青松園入園者自治会（協和会）発行、1981 年。以下『自治会史』と略記する）でも、その執筆と編纂にさいして、『報知大島』が参照されたようすがない。2009 年 4 月にあらためて発見された『報知大島』については、べつに論じているので、ここではくりかえさない。

本稿では、『靈交』と『藻汐草』のその後をたどり、継続後誌の概要や掲載記事を紹介することとする。『藻汐草』のその後をめぐっては阿部が、『靈交』のそれについては石居が執筆した⁵⁾。まずは、『靈交』と『藻汐草』についてかんたんにふれておこう。

キリスト教信徒の刊行物 『靈交』は、1940 年 12 月発行の第 265 号附録に、「廃刊之辞」を掲げた。

今時局がら国家の命を受け、こゝに廃刊するの止むなきに至つた。／さながら愛娘の死にのぞむ如き痛みと淋しさを覚ゆる。

と編集人は記した。この機関紙のほとんどの編集を担った長田穂波はかつて、『靈交』の発行を生命の誕生に喩えていた。彼はこの附録に、「瞑想と祈禱」（ほなみ生）という題の文章をよせている。

初刊は毛筆で八部発行したが、彼の頃は、現在沖縄に居る「青木恵哉」君が額に汗して書いて呉れたものである、青木君は若かつた、〔中略——引用者による。以下同〕／間も無く石本〔俊市〕兄、山形〔豊〕兄、山本〔徳太郎〕兄、高本〔唯一または唯市〕兄、等は皆々青年の意気にもえて青木兄を中心、よく会食して居た。〔中略〕／青木兄が沖縄の救癩史上に一頁を有すると大同小異の貢献は、石本兄にも有り、山本徳兄、高本兄、山形兄にもあるのである。斯くて「靈交」は謄写刷となりて、七

²⁾ 『靈交』と『報知大島』の所蔵状況や掲載論稿については〔阿部 2009 f、g、h〕を参照。
³⁾ 『藻汐草』と『青松』の閲覧について自治会編集室にお世話になった。ここに感謝を記す。
⁴⁾ 厳密にいうと『報知大島』創刊号に発行年月の表記はない。発行第 2 号やのちの記録をもとに 1932 年 3 月創刊とした。
⁵⁾ 石居の稿は 2009 年 8 月 18 日開催の滋賀大学経済学部ワークショップ「Texture in Cultural BackyardIV」キリスト教とハンセン病の交わる場所で—大島青松園、復刊『靈交』に綴られた「世界」での報告を元としている。

十部になり、百部に達したものである。〔中略〕／其後、印刷としてより、三百、五百、七百、一千部と躍進した。／〔中略〕若しゆるさるゝならば、時々パンフレットやうのものを出し度いと祈つてみる。或は何処か理解ある書店より出版して頂ければとも念ふてみる。

機関紙の廃刊にあたって、発行の歴史が躍進の時間として想起されている⁶⁾。すでにこの時点で15冊の著作を上梓していた穂波にとって、出版社との交渉はそうむつかしくないと予想できたのだろうか。機関紙を書店から出版したいとの希望は、わたしには意外だった。

さきの「瞑想と祈禱」に名が出ていた石本は、霊交会創立五十周年にさいして、この廃刊のときを回顧している（石本俊市「霊交会五十年の歩み」笠居誠一ほか編集委員『霊交会 創立五十周年記念誌』大島青松園霊交会、1964年）。

戦時色が益々濃厚になるにつれて特高課のうるさい干渉と圧迫により、強いて発行をつづけると、わたしたちは兎に角として、園長先生はじめ園当局にご迷惑がかかることをおそれ、ついに昭和十五年十二月号第二六五号をもつて終刊とするのやむなきにいたつたのであります。

1940年に刊行が途絶えた『霊交』は、ようやく、1973年7月になって、『大島霊交会週報 霊交 復刊』として再刊された。

わたしが調査を始めた当初は、霊交会教会堂図書室の左端にある書棚のいちばんうえに、包帯などでくくられた『霊交』が整理されており、それしか残っていないとおもっていた。それはかなり欠号の多いまとまりで、国立療養所長島愛生園の神谷書庫にある分とあわせてようやく活字版の『霊交』がそろそろほどで、廃刊となる第265号も初期のガリ版の『霊交』も、大島にも長島にもまったくなかった。そうしたところ、図書室の書棚の改修と増設をすることとなり、それにさきだつて2008年秋に図書類を書棚から出してみると、図書室右端の書棚に厚紙の表紙をつけて綴じられたりバラのままだったりした活字版『霊交』にくわえ、刊行第4年次となる1922年発行のガリ版の『霊交』もみつき⁷⁾、ずいぶん欠号分が減った。

『霊交』は、『自治会史』の「文芸活動の歷程」の章では、ごくかんたんに「教会通信」としか記

⁶⁾ ここにいう毛筆書きでつくられたという創刊号はみつかっていない。1919年という『霊交』の創刊年ものちの記録による。

⁷⁾ [阿部2008]で現在確認できる最古の『霊交』を刊行第3年次となる1922年発行号と2回も記したが、1919年創刊の『霊交』は1922年には刊行第4年次となる。ここに訂正する。

されていない。だが、この『靈交』はたんに教会の活動や信仰の実践を伝える広報ではなく、生活の場としての療養所や島のすがたや、編集と発行を主に担った長田穂波を始めとする靈交会信徒たちの情感と精神の記録として、いまわたしたちが読みうる史料である。

ほぼ教会堂内の悉皆調査を終えたので、これ以上の『靈交』欠号分の発見はむづかしいとおもわれ靈交会代表と協議したところ、彼らはここまでの調査をふまえて、現在ある『靈交』すべての号のデジタル撮影を決断した。撮影はすべて靈交会の費用でおこなわれ、2009年夏には、JPEG形式で所蔵分『靈交』全冊全頁を収録したDVD1枚と、そのプリント版製本見本全6冊3セットができあがった⁸⁾。『靈交』はいま、研究者が史料として活用することどまらず、『靈交』創刊90年の今年、また5年後の2014年に会創立100年をむかえる靈交会の運営を担うものたちにとっても、後継者としての自分たちが保持すべき歴史として見直されているのである。

さて、岡山県が発行した、岡山県ハンセン病問題関連史料調査委員会・ハンセン病問題関連史料調査専門員編『長島は語る－岡山県ハンセン病関係資料集』前・後編（2007年・2009年）は2冊あわせて1565頁となる大部の史料集である⁹⁾。公共機関などには冊子で配布し、頒布を希望する個人にはPDF版を収録したCD-Rを送料着払いで送付している。少しずつではあれ、この岡山県や靈交会のように収集あるいは所蔵史料のデジタル化が始まっている。ただし、岡山県ではこのデジタルデータをWEBで公開するか否かの議論に決着がついていないという。靈交会でも、プリント複製した『靈交』のハードカバー製本版を交流のある教会などに送付することだが、デジタルデータの収録ディスクの配布やWEBでの公開はようやく検討の緒についたばかりで、それがどうなるかの見通しはたっていない。WEBでの公開となれば、サーバーをどこに置くのか、だれが管理するのか、といった課題がすぐにおもいつくものの、なかなか解決の方途はみいだせない。青松園事務局や香川県、あるいはどこか国の施設や機関との協業も望まれるが、その実現はむづかしいだろう。

⁸⁾ この3セットは、靈交会と靈交会前代表、そして阿部が保管している。貴重な史料の提供を靈交会に感謝する。

⁹⁾ この史料集があきらかにした史料とその公開や活用をめぐる論点をていねいに論じた廣川和花「史料が語るハンセン病史・岡山県と邑久町の試み－紹介『長島は語る・前編』・『邑久町史 史料編（下）』（『部落問題研究』第183号、2007年12月）と松岡弘之「ハンセン病関係資料の保存と活用のために－『長島は語る』前編によせて」（『岡山地方史研究』第114号、2008年4月）を参照。

園長による編輯と発行 『藻汐草』は、1944年6月発行の第13巻第5号通巻第112号に「予告／休刊の御知らせ」を掲げ、

藻汐草も時局に即応し、来月号限りで一時休刊致すことに成りました、即ち七月号を休刊号と致します

と告知した。同号の「編輯後記」にも山本生の名で、

些細な事ながら、本誌も国策に順応すべく、後一号を以つて一事休刊する事と成りました、其の全貌は何れ休刊号誌上に発表致すとして、予告申上ます。

と記されている。だが、「大島青松園創立50周年記念合本」にその7月号は綴じられていない。この1944年6月号をもって、『藻汐草』の刊行は終わったとおもわれる。ただし、通巻第112号との印字は実態とは異なり、途中で号数表記の書き誤りがあったので、実際は通巻第114号となる¹⁰⁾。いつの時点で記されたのかはわからないが、当該号の表紙には鉛筆書きで「114」と記されている。

『藻汐草』は、そのすべて号の編集と発行に療養所の医官があたり、とくに第3代所長となる野島泰治が長期にわたってその業務を担っていた。『自治会史』口絵の『藻汐草』写真には、「施設側管掌の療園誌」のキャプションがついている。本文の「文芸活動の歷程」の章でも、「職員編集の療養所機関誌」と記したのだから、『藻汐草』は、自治会活動とは距離をおいた「役所」の刊行物というとらえ方だったのだろう。とはいえ、『藻汐草』は療養者たちが執筆した詩歌や随想、療養所内での催事や療養所への慰問や寄附などをいまに伝える記録となっている。

園内で逐次刊行物の発行が絶えてしまった戦時下の1944年。その年の11月30日付で、『青松』という名の雑誌が園内で発行された。ただしそれは、手書きの「回覧雑誌」であった。前記「文芸活動の歷程」(『自治会史』)に、この刊行物についても記されている。

同人誌「青松」発刊(19年11月)も前記[「職員と患者」の文芸集会]の意かの一環で、藻汐草廃刊で萎縮沈黙するべきでなく、形だけでのものでも「みんなで雑誌をもっては？」との示唆を得、仲間たちで発足したもの。敗戦色兆さず貧窮・荒涼下に、せめて惻隱の情感だけでも綴り止めておこ

¹⁰⁾ 国立療養所長島愛生園神谷書庫に「長島愛生園「神谷書庫」収蔵図書一覧」という表題の抜刷様の冊子がある。その「全国ハ氏病療養所機関誌一覧」の項に『藻汐草』もあがっていて「昭和7年4月～昭和19年6月まで／124冊」と記されている。『自治会史』の口絵にある『藻汐草』の写真には「昭和7～19年まで通巻一一二号を発行」のキャプションがついている。「124冊」「通巻一一二号」はいずれも誤り。

う、とのひたむきな思いと、ひもじさに詩情のカケラでも置いて、耐えよう、との素朴な念願でもあった——廃紙ウラや薬包紙に、てんでに書きこまれた生ま原稿の荒綴じは、風流というか、珍妙無類な創刊だった。二年目からは紙型を揃え、やがて謄写版刷り原稿紙に統一したが、なま原稿綴じの一部限定は変わらず、主として「園内回覧」に限られた。／空き腹ながらも、意気軒昂というか、若さと意欲が溢れていたし、戦後の「療園再建」の涙ぐましい情況等も活写されており、貴重な史実でもある。23年末の第46号まで続き、活版刷り発行へ移り、自治会誌へと発展する。

との回顧である。『自治会史』は、「「青松」（自治会編集・発行の月刊紙）」の写真も口絵に掲げ、そこに「藻汐草に代わる同人誌から出発（19年）／55年10月現在三五三号に達し続刊中」のキャプションをつけている。ここにいう『青松』は、さきの「文芸活動の歷程」に、「活版刷り発行へ移り、自治会誌へと発展する」と記された、現在も発行がつづいている逐次刊行物を指し（2009年9月時点での最新号は、通巻第647号第66巻第4号第7・8月号で、隔月刊となっている）、また、「藻汐草に代わる同人誌」が手書き版の『青松』である。『藻汐草』、手書き版『青松』、活字版『青松』は、それぞれに編集や発行の担当者が異なる。だが、自治会の五十年史であり、また自治会が編んだ島の史誌では、園内の文芸活動において、『藻汐草』→手書き版『青松』→活字版『青松』と連続する歴史があるとみられたのである。

手書き版『青松』は、物資の少ない時代につくられた回覧誌で、薬包紙やすでに使用した藁半紙などが用いられていた。紙自体の質がわるいうえに、おそらく回覧するうちにだいぶ傷みもしたのだろう、どれも保存状態はよくない。できるだけ早く、マイクロフィルムで撮影するかデジタルデータ化するなどして保存する必要がある。藁半紙刷りの『報知大島』はかなり長いあいだだれもみなかったからだろう、保存の状態はともてよい。しかしこれも、早急に保存のための対処が必要である。

療養所における図書や文書などの保存と公開と活用をめぐる、できるだけ広く深く情報を共有し、それらが適切に進められる必要がある。岡山県は、療養所のある自治体として類例のない事業をおこなったのであり、また、トヨタ財団や福武学術文化振興財団の研究助成は、療養所の史料保全に理解のある事業として評価されよう¹¹⁾。

11) トヨタ財団は2005年度研究助成プログラムに研究題目「ハンセン病施設における関連資料の

『青松』

(阿部)

わたしは、2009年6月27日から7月1日にかけての大島での調査で、はじめて手書き版『青松』を閲覧した。手書き版『青松』の創刊号には、表紙に「青松／第一号／昭和十九年拾一年卅日発行」と記されている。まず、その「あとがき」をみよう。

「廻覧雑誌でも作つておいたら、先でまとめるのに都合がよい」と、園長先生が仰有つた。そのことを先日、歌集「松籟」「星霜」の出版記念座談会の席上つたへたら、「やらうではないか」と皆がいきごんだ。私に具体的にはおしつけて^(注)仕すので、第一号を編んだ。もつとげなものと考へたが、忙しいので意にまかせなかつた。おいおいよいのが出来るだらう。／○実際「藻汐草」の休刊は淋しいが、こんなにして見ると、又ちがつた面白さがある。私の考へでは一回毎、編輯者が代つたらそれぞれの持味が出て、一層面白いだらう。／○お役所の方は、誰々に見ていただくか、いろいろ考へたが、結局、事務官殿のお手数を煩はし、適当の人に見て貰ふことにした。そして青山荘の林



整備集成並びに環境保全に関する研究」(研究代表者名古屋工業大学宮野秋彦)を、福武学術文化振興財団は瀬戸内海文化研究・活動支援調査・研究助成として2008年度に研究題目「国立療養所大島青松園(香川県高松市)における知の集積と表明についての文化研究」と前記のとおり2009年度に研究題目「瀬戸内海域のハンセン病療養所における情報集積と交流」(いずれも研究代表者阿部安成)を採択した。

先生の御批評をいたゞいてから、此方へお返し願つたらと思つてゐる。／＼「青松」といふ題は、これも私に仕^(注)されたから私の思ひのまゝつけた。平凡といふかも知れないが、「青松」を私が好きなので仕方がない。「いくさ」なんてのも考へたが、青松の気高さ、おごそか、爽やかさに比較できない。同人連中の御諒解を得たい。／＼第二号の原稿メ切は来月十日ときめたい。お役所のどなたか、何か寄せていただけないものかしら、もちろん病友の原稿メ切も十日である。そして第二号は編輯を浅野君にしてもらひたい希望である。原稿は私宛にでも浅野君宛にでも何方でもよい。お願ひしたい。／＼○園長先生や事務官殿がすくなくとも将来、吾々のことを園外に語られる際、この「青松」が何かの御参考になる域にまで高めたいものである。／＼○では一号を送り、二号をたのしみに待つていたゞきたい。／＼○第一号の原稿を請求したのは、喜田正秋君だけであつた。メ切を卅日と勘ちがひしてゐたらしい。昭和十九年十一月二十九日記／土谷勉

ここにはていねいに、署名のうゑに朱の認印も押してある。創刊号の編集を担い、「あとがき」を記した土谷勉は、霊交会とおもにその創始者のひとりである三宅官之治の史伝である『癩院創世』（木村武彦発行、1949年）や、『昔の癩のこぼればなし』（厚生省医務局国立療養所課、癩予防協会編、癩予防協会発行、1950年）の著者である。のちに社会復帰し、その後に、『自治会史』の編集にも「特別参加」をすることとなる。現在にもつながる園内の逐次刊行物の誌名の命名者は土谷だった。

雑誌発刊が話題となった出版記念座談会で祝賀された刊行物の『松籟』と『星霜』は、前者が笠居誠一の編集により藻汐短歌会から1944年11月に発行、後者は浅野繁の編集でやはり藻汐短歌会から『松籟』と同月に出された、どちらもガリ版刷りの歌集である。『藻汐草』の休刊後も短歌などの作品発信の意志が持続するなかで¹²⁾、園長と「青山荘の林先生」（林文雄、東風の号を持つ）の勧めもあって、「廻覧雑誌」の発行となった。土谷が望んでいた1回ごとに編集者をかえるとの構想はうまくいかなかったようで、巻頭言やあとがきのようすから、しばらくは土谷による編集がつづいたとおもわれる。手書き版『青松』はほぼ月刊誌で、それぞれの発行を号とするのか巻とするのか不統一となっている（以下本文での表記は、No.2、とする）。

短歌や俳句などの作品の発信や、廻覧誌をとおした情報の交換という意志と意欲が、「大島療養所」

12) 大島で発行された『藻汐短歌』という月刊誌の詳細はわかっていない。これについてわたしは霊交会図書室にある第2巻第4号(1937年4月)と第3巻第2号(1938年2月)しかみていない。

の名が入った原稿用紙や「患者用紙」などだけでなく、粗悪な藁半紙や、薬包紙や過去の文書の裏に記された1つひとつの文字にあわられたのである。ほかの療養所でどのくらい手書きの回覧誌がつくられたかわたしは把握していないが¹³⁾、この手書き版『青松』は、大島では唯一の、また国立療養所の全体でも稀有のメディアといってよいであろう。

創刊号に「島庵独語」を寄せた穂波は、その稿のあとに、
諸君!!/大いにやりませう!/この程度の原稿なら、別に永続性を心配する事はないですね。/課題は
沢山あるし、一時間もかゝれば出来上るし。/何のへノへノモヘエだ、大いにやりませう。面白くて
益になるものが確に出来る、園内向け故にカタがこらない。/諸君の御努力を乞ふ/穂波生
と、発信への意気込みを記し、また奮闘を呼びかけていた。

創刊号の編集を担った土谷は、No.2に誌名の由来を記している。

「天に雪霜なくんば、青松も草に若かず」/と、古人が訓へてゐる。雪や霜のない間は、松も草もみんな青々として区別がない。しかし、ひとたび雪や霜にあふと、草は枯れて松ばかり残つてゐる。本誌を「青松」と名付けた所以である。

たんに「青松」が好きだからとかたづけずに、自分たちがつかさどるメディアの由緒が定められたのである。

手書き版『青松』は、土谷や林などほぼ固定した同人が寄稿する同人誌の様相を示してゆく（のちにNo.16で同人制するとの告知があり、その内規も示される）。そうしたなかで、No.3の「あとがき」に土谷が、「本号の編輯にあたっては、発刊以来ズツト石本さんの御指導をいたゞいてをります。本号も亦、同様です」と記したとおり、霊交会信徒であり自治会の総代など要職をつとめる石本俊市も、寄稿は少ないながらも、その編集への関与があった。また、手書き版『青松』は、その関連誌も誕生させたようだ。No.10に「祝「若葉」の創刊」という記事を土谷が記している。「若葉」が浅野君始め先生方の御尽力で創刊された。「青松」の弟であり、妹である。〔中略〕尚、児童たちは、先生がこんなよいものを作つて下さつたのだから、恥しくない立派な作品をどしどし作ることである」というのだから、ここにいう『若葉』児童用の文芸集なのかもしれない。だがいまの

¹³⁾ たとえば、沖縄愛楽園が発行した『愛楽』1巻1号(1952年6月25日)は手書きだが、ガリ版刷りなのであるといどの部数が刷られたはずである。

ところ、『若葉』は大島でみつかっていない。

手書き版『青松』は、後掲のとおり、いくつかの特集号を組んでいる。故人を追悼する特集が多いなかで、「高松戦災特輯号」（1945年8月）は編集者や執筆者たちが大島からみえる「社会」の出来事も視野に入れていたこと、「協和会創立第十五周年記念特輯号」（1946年3月か）は園長や医官や職員と療養者たちがいっしょにつくるこの手書き版『青松』が、大島の自治活動を自分たちの歴史としてとらえていたことを、そして、「母の日特輯号」（1946年6月）はあらためて療養者たちには家族があることを報せている。

No.15に穂波は「松籟海鼓／新日本建設と青松園の巻」を寄稿している。これは1945年12月の発行である。逐次刊行物『藻汐草』からつづく連載「松籟海鼓」のなかでの時局論である。穂波は1945年12月18日に没する。この稿はまた、穂波没後の彼の追悼号（1946年1月）にもふたたび掲載された。手書き版『青松』は、1944年から1948年まで（ただし終刊号となるNo.46はみつからない）をその発行期間としていたので、そこでは戦時（「戦災」など）と戦後（「新日本」など）が論じられている。療養所が、どのように1945年を跨いだのか、あるいは、療養所史の劃期として1945年をおくことに意味があるのかどうか——手書き版『青松』は、それらを考えるメディアでもある。

戦後ということであれば、No.21（1946年4月か）には「近況速報第一報／投票場風景」（D.D.T生）という題の記事があり、そこには1946年4月10日におこなわれた選挙の「衆議院議員投票所入場券」の原物が貼付され、会場のイラストが描かれている。

もう1つ、いまある手書き版『青松』のなかに綴じられたただ1つのタイプ印刷をとりあげよう。この「病友へ」と始まる文章は、依頼稿とはいえなぜこの内容を療養者に伝えなくてはならないのかがわからないものといつてよい。この文章はその内容よりも、執筆者のようすを伝えるよい記録なのだ。「ペンを持つと自分でも読めない位、まして御他人様は、役所でも皆が大部困り居りますくらいで、でタイプに打つてもらひました」という環境にいる木村は、「厚生大臣官房総務課」につとめる人物だった（封筒差裏書）。この木村が、土谷勉の執筆した『癩院創世』の発行者である。この史伝は木村の自費出版だったのかもしれない。いま木村の役職を知り得ないが、大島の療養者の著書は、こうした厚生省の職員とのつながりによって出版されたばあいもあったのである。

『大島霊交会週報 霊交 復刊』

(石居)

霊交会が発行した週報の正式タイトルは『大島霊交会週報 霊交 復刊』という（以下『週報』と略記する）。第1号には復刊にあたっての特別な言辞はみられないが、掲げられた「復刊」の2文字からは、戦前『霊交』との連続性に対する意識のほどをうかがうことができよう。『週報』は現在、途中若干の欠号があるものの、第1号から第555号（1984年2月発行、表記は545号）までの存在が確認できている。第555号にも特別なことわりがみられないことから、当該号をもって休刊または廃刊したのか、みつかっているのがたまたまそこまでなのかは、定かではない。



1973年7月15日に「復刊」された『週報』は現在、霊交会図書室で概ね号数順に11冊のファイルに綴じられ、保存されている。はじめのうち、毎号きっちり4部ずつ、途中からそれが5部になり3部になりして、ばらついてゆく。最終的には毎号1部のみの保存が多くなり、欠号も、発行されたはずの（少なくとも）



555号のうち12号分認められる。また、大幅に内容が重複したファイルの存在や、第442号のつぎに第433号が発行されたことにもなう号数表記の重複、などの混乱もみられるが、保存状

態は概ね良好である。

『週報』は毎週日曜日、つまり聖日礼拝のたびごとに配布された。霊交会の役員には週報係というポストがあり、3名が原稿・印刷・配布の3役を分任、自治会事務所のタイピストの協力もと、B5判両面印刷一枚刷りの『週報』を発行していた¹⁴⁾。各面3段に組まれた紙面は、表面を当日の礼拝プログラムと前週の説教（立証・奨励）要旨、裏面を今週の聖句・集会予定とお知らせ、で構成することを基本としている。また発行目的は、おもに「会員への伝達」[300—以下、カッコ内の単独数字は『週報』の号数をあらわす]とされているが、100ヶ所ほどに郵送配布もおこなっていたという。

B5判2面という物理的な制約をもつ『週報』の情報量は、決して多いとはいえないが、週刊という高い刊行頻度は、量とは異なる価値を有しているといえよう。ここでは『週報』、とりわけその裏面の大半を占める「お知らせ」欄の内容を中心に据えて、『週報』に綴られた1970～80年代（以下「当該期」と表記）の霊交会をとりまく「世界」の一端に触れてみたい。

『週報』はその重要な役割のひとつとして、会員の動静を子細に報じている。まずは会員数やその内訳である。それによれば、当該期の霊交会員は、50名強で推移しており、男女比は概ね3対2、なかには病棟に入室している者、長期帰省中の者、なども含まれている。1864年8月15日現在で、未受洗の求道者を含めて65名の会員を有していたことを勘案すれば¹⁵⁾、それから10年ほどで10名以上減員したことになる。これは会員の召天（死去）によるものが大半だが、ときには転宗にもなって退会する者もみられる。一方で新入会員や、10年ほどの社会復帰を経て再入園となり、霊交会に復籍する者なども存在する。

ところで、「復刊」に際しては「沈黙」を貫いた霊交会だが、自らの来歴にかかわるいくつかの記念行事には、積極的な動きをみせている。まず「復刊」翌年にやってきたのが、1914年11月11日の会創立から数えての60周年だった。1974年を迎えるや、同年を「大きな記念の年」と位置づけた霊交会は、「記念行事」の検討をはじめが[35]、およそ半年に及ぶ検討の結果、導きだされた結論は、「極力簡素」に、「お祭り騒ぎを避け」「記念礼拝を守る」というものだった[69]。正確

¹⁴⁾ 第3号から第18号のみB4判片面刷りだが、それとて印刷面を山折りにして保管されており、実質的にはB5判両面刷りと同等のイメージで作成されていたことがうかがえる。

¹⁵⁾ 前掲『霊交会』。

な 60 周年に 1 日早い 1974 年 11 月 10 日におこなわれた記念礼拝では、玉島教会（倉敷）の河野進が説教を務め、「聖霊によつて運ばれた一粒の麦、三宅官之治の『よいおこない』によるいのちがけの伝道が、あらゆる迫害に勝利して、霊交会が生れた」と起源をたどり、「六十年毎夕、霊交会から流れる祈りの光こそ霊交会の支え」「どれだけ多くの人々がこの光の恵に浴したか計り知れない」と 60 年の歩みに意味を与え、「六十年の恵みを感謝し、更に力を与えられて世界の救いに出発しなければならぬ」と未来を展望してみせた [71]。長年にわたって「救済」の客体とみなされてきた「療養」者たちにとって、自ら「救済」の主体となるべきだと説く教えは、どのように響いたのだろうか。この点に関しては、別の機会に論じることとしたい。

創立 60 周年から半年とたたない翌 1975 年 5 月 25 日には、「多くの先輩たちの信仰をしのび、いまも限りないご恩ちようにはぐくまれながら、一人ひとりが生かされていることを覚えて」、会堂の献堂 40 周年記念礼拝がおこなわれている [98]。ここでも説教に立った河野進は、「天父のご計画によつて三宅官之治大兄がこの島におくられ一粒の種がまかれたことにより、今日の私共がある」と三宅官之治の功績を称えた [99]。この後も霊交会は、『週報』で報じられているものだけでも、61・63・68 周年に記念礼拝を「守って」いるが、そこでは三宅官之治（清泉）を筆頭に、長田穂波・江木長助・横井武夫・川越鹿七といった創設メンバーの功績が、くり返し称えられている。

このように、会の来歴をたどる記念行事のなかで、会を創り、支えてきた人びとが想起されたが、そうした人を想う行事の中心となったのが、春秋 2 回の召天者記念会だった¹⁶⁾。とりわけ秋の記念会は、会の周年記念礼拝と同時開催され、会の来歴が、会を支えてきた一人ひとりの営みの集成であることを意識させた。記念会に際しては毎回、「先にみ許に召されました百三十一人の信仰を偲び」「霊の養ない」をおこなう [35] といった具合に、それまでに召天した会員の数が確認され、「病とあらゆる苦難と戦いながら、天国にがいせんし、今も私たちのためにとりなし祈り励ましていて下さる」召天者を偲びつつ、会員は「死は決して滅びではな」く「栄光の生命への飛躍」であることを内面化してゆく [123] ¹⁷⁾。こうした内面化は、「三宅官之治大兄や長田穂波大兄につづく者として益々精進」するよう会員たちをかきたててゆく [70]。こうしたとき、想起されるべき鑑と

¹⁶⁾ 会を支えてきた人びとに対する想いの発露は、召天を機としたものばかりではない。会員の受洗 50 周年を言祝ぐ記事の存在は、その一例といえよう [300・540]。

¹⁷⁾ 召天者数は、1983 年秋の段階で 145 名にのぼっている [539]。

して登場するのは、当初は往々にして三宅官之治・長田穂波というふたりの創設信徒だったが、1980年代にはいるころから次第に、石本俊市が長田にとって代わるようになる。石本は、三宅・長田ら創設信徒たちに続く、いわば「第二世代」だが、早くから三宅・長田らのもとで会を切り盛りするとともに、青松園の入所者自治会でも中心的な役割を担った。1980年代を生き抜いた会員たちにとって、三宅や長田よりも、はるかに身近な鑑として石本はあった。そんな石本が、1979年10月26日に召天したのである。

石本俊市にかぎらず、会員が召天した場合、霊交会は各人について告別式・召天30日記念会・召天1周年記念会をおこなっているが、「霊交会の先達の信徒」という「重い存在」だった石本の召天は、「会員一人ひとりの衝撃も大き」かったのみならず、青松園全体に影響を及ぼすものだった[330]。石本の葬儀は、31年ぶりの自治会葬として「おごそか」かつ「盛大」に執りおこなわれ、園外から約30名が、園内からは会館に溢れるほどの人びとが集まったという。そのみならず、霊交会には石本の死を悼むメッセージがつつぎと寄せられ、『週報』紙上で紹介しきれないほどになっていたし、自治会誌『青松』では追悼特集号(1980年2月)も編まれている。そうした石本に対する人びとの想いの大きさは、一連の追悼行事の掉尾を飾る1周年記念会に、およそ100名の参加者があったということからも、うかがうことができよう。

一方、長田穂波をめぐるのは、詩集『靈魂は羽ばたく』(光友社、1928年、日曜世界社より1940年再版)復刊の要望が各方面から寄せられ、会は好善社の藤原偉作に対応を相談するに至っている[66]。その結果、日曜世界社を吸収した新教出版社には復刊の意図がないことが判明、会が300部を引き受けることを前提に、ろばのみみ編集部より1000部限定での復刊(1975年)が実現した。復刊に際しては、「いまもなお生きて語る著者の信仰」「あらゆる苦しみ、悩みをのりこえ、しかも、力強い詩文学として療養者の心の歩みをうたいあげた珠玉の数かず」との広告が打たれ[96]、霊交会の在庫は半年で20部となり、好善社の在庫100部を追加で引き受けるほど、注文が寄せられたという。『週報』では、長田の詩「ラザロ死せり」の『近代日本キリスト教文学全集』への収録なども報じられており、長田穂波が、想起されるべき創設信徒のひとりとしてよりもむしろ、会を、園を、「療養」者を代表する詩人として想起されていたことがうかがえる。

つぎに霊交会の日常に触れてみよう。霊交会の活動のベースは、いうまでもなく礼拝にあったが、

当該期の礼拝のあり方は、基本的に聖日礼拝（日曜日）・特別礼拝（火曜日）・夕の祈祷会（毎日）から成り立っていた。聖日礼拝は、牧師による説教（1～2回／月）、会員による奨励（2～3回／月）・立証（1～2回／月）のいずれかを中心に構成され、牧師は園外から来教する。当該期に中心的に来教していたのは、玉島教会の河野進だった。特別礼拝は、聖日礼拝への牧師の立ち合いが担当教会とのかねあいでも制限されざるをえなかったために設けられたものと考えられ、毎回牧師が来教している。また夕の祈祷会は、会員の持ちまわりでおこなわれていた¹⁸⁾。

このように、霊交会の活動は一見精力的な印象を与えるが、一方で年々高齢化が進む会の運営には、つねに困難がつきまとっていた¹⁹⁾。年一回の役員改選に際しては、全会員による選挙が望ましいとされながら、交代不能な会員が少なくないことを理由に、留任や再任が続き、代表は自治会長との兼任を余儀なくされている。多くの会員が「年がいつたり体調のおとろえを覚えている」という「実状」のなかで、「会務を分担し合い」「お互い助け合つて」といった呼びかけは空しく響く[396]。

さらに、会堂が小高い丘のうえにある霊交会は、高齢化や足腰の弱体化にともなって、礼拝に参加することすらままならない会員が増加するという事態に直面した。対策として、乗用車を調達するという案も提起されたが、「身体機能がどんなに減退しても、礼拝だけには出たいという熱望を持ち続けるのが信仰者としてあるべき姿であろう」[468]といった見解のもと、もうしばらく「自力で礼拝に参加することを前提」にする、という結論が導かれている[470]。それでも『週報』紙上で、「聖日の礼拝は特別に重要です」[523]などと、信徒にとってあまりにも自明であろう礼拝参加の呼びかけが再三にわたってなされている点に、事態の深刻さが透けてみえる。実際、司会者・立証者の減少は深刻だったようで、「奉仕者の名簿からはずしてほしい」という要望と、「洗礼を受けている者は、無差別に順番を追つて」務めを果たすべきとの説諭のせめぎあいが、紙上にも反映されている[524]。そしてついに1954年には、新年度を迎えても役員が決まらない、という深刻な事態にまで至っているのである。

会の状況が厳しさを増していた1977年6月、ひとりの信徒が星塚敬愛園の恵生会から招聘され

¹⁸⁾ このほかの特別行事として、イースター・クリスマス・元旦の礼拝、誕生会、聖書研究会、早天祈禱会などもおこなわれた。

¹⁹⁾ 1982年には、会員の平均年齢が60歳を超えていると報じられている[467]。

た。彼は聖日礼拝における奨励や立証を精力的に担うことによって会を活性化させたが、在園7年
が近づいた1984年3月、敬愛園の「病友」からの「帰って来て、支えてほしい」「相談相手になっ
てほしい」という再三にわたる申し出に応じて、帰園することとなる[549]²⁰⁾。このことは、3
月以降「どういう形で、どなたに講壇に立つていただくか」という喫緊の課題を会にもたらずが
[521]、結果として吉高国彦(高松トキワ町教会)・川瀬勝次(栗林教会=高松)・宮地慶信(恵キ
リスト教会=高松)の3牧師による月1回の交代来教、三吉信彦(高の原教会=奈良)²¹⁾・河野
進(玉島教会)・大島得雄(長島曙教会)による月1回ずつの来教によってこの危機を乗り越え
るとともに、毎月4回、すなわちほぼ毎週、牧師立ち会いの聖日礼拝が実現することとなった。

ところで『週報』は、当該期の霊交会とその会員たちが、日ごろの活動のなかで、会外とどのよ
うな「交わり」をもっていたのかも、垣間みせてくれる。青松園に37年間勤めたのち、邑久光明
園に転出した医官の高橋竹代は、退職に際して霊交会を訪れ、礼拝に参加、挨拶をしたという。そ
んな高橋に対して会は、「生涯を私共のために用いて下さった」と賛辞を惜しまない[178]。また、
技官として青松園に20年以上勤務したのち、郷里の土佐山田で召天した植村許子の告別式には、
霊交会代表が遠路赴いているが、その後、植村の遺志と親交のあった高橋竹代の意向で、遺骨が青
松園の納骨堂に納められることとなった。納骨に先だって霊交会では、植村を偲ぶ召天30日記念
会(1979年7月1日)をおこなったが、「追悼感話」に立った石本俊市は、「この世的に考えます
と余り幸福だったとは言えない」植村が「繊細な神経の持主」で「誠実な半面、らい落な明るい土
佐女」だった、と評している[313]。こうした直截的かつ内面に立ち入った人物評は、石本ら霊交
会の人びとと植村とのあいだに、単なる「療養」者と療養所の当局者という関係を超えた「交わり」
が存在したことをうかがわせる。それゆえにこそ、帰郷後も「青松園をおぼえ、お祈り下さってい
たことが証しとなり」「永久に私たちと共に納骨堂におはより下さる」ことになったのである²²⁾。

²⁰⁾ この送別礼拝当日発行の『週報』第555号(表記は545号)が、霊交会図書室で現存が確認さ
れている最後の号である。

²¹⁾ 三吉信彦は、霊交会の深刻な状況をみかねた藤原偉作(好善社)の紹介で、1983年の5~7月
に来教したことがきっかけとなった[524]。

²²⁾ 高橋竹代もまた、召天した植村許子を記念して、霊交会訪問者のための宿泊所(霊交荘)を建
設して献げることが申し出ている。植村の召天一周年記念会(1980年4月27日)には、あわせて
落成感謝礼拝もおこなわれている[355]。

このように、信仰を通じてそれぞれの「立場」を超えた「交わり」をもった霊交会とその会員は、園外の団体や個人とのあいだにも、多様な「交わり」を築いてゆく。まず園外交流の基本となったのが、各地の療養所に存在した教会同士のネットワークである。「近隣」の長島曙教会や邑久家族教会とのあいだには、礼拝や節目に際しての代表・役員・会員の行き来があったばかりでなく、着任した牧師が挨拶や来教に訪れることもあった。また大島・長島・邑久の3教会は、瀬戸内三園教会合同礼拝をもちまわりで開催して人的交流をはかったが、霊交会はやがて人手不足で礼拝の主催が困難となり、1982年に霊交会の主催中止を申し出ている。その後も、長島や邑久での合同礼拝に会として参加し続ける努力が払われたが、ついにそれすらもままならなくなり、「個人の資格で参加を希望する者」のみの参加へと縮小せざるを得なくなってしまう [511]。このほか『週報』には、菊池黎明教会（菊池恵楓園）・聖生会（松丘保養園）・谷川教会（奄美和光園）・秋津教会（多磨全生園）・祈りの家教会（沖縄愛楽園）など全国の療養所教会との「交わり」の一端が報じられているが、療養所教会との「交わり」にかんしてもう一点注目すべきは、楽生療養院（台湾）の教会代表との交流（1981年6月8～11日）[397]だろう。これは、好善社が楽生院のプロテスタント・カトリック両教会の代表を招待、日本各地の療養所教会に呼びかけて、それぞれの信徒との交流を促そうと企画したもので、霊交会は園内のカトリック教会と協議したうえで、受け入れを決めている。

キリスト教を介した「交わり」は、何も療養所教会とのあいだにかぎって結ばれたものではなかった。とりわけ、大島と海を隔てて「隣接」していた高松、さらには瀬戸内・四国の教会との「交わり」は、その数においても、頻度においても、際立っている。高松教会とのあいだには、霊交会員が招かれて説教や立証をおこなう一方、高松から信徒が大島を定期的に訪れて祈祷会・懇親会などをおこなう関係が結ばれ、一宮教会とのあいだでは、霊交会員の一宮教会献堂式への参加、一宮婦人会の大島来訪などがおこなわれていた²³⁾。また、高松トキワ町教会からも信徒が来訪、特別礼拝がおこなわれたほか、同教会牧師の吉高国彦は、恵キリスト教会の宮地慶信とともに、1881年から3夏続けて教会堂外壁の塗装奉仕に訪れている。1975年6月に高松市民会館で開催された「ライを正しく理解する集い」（藤楓協会主催）に際しては、霊交会が高松教会・一宮教会・平井教

²³⁾ 一宮教会の牧師小島誠志は、しばしば霊交会で説教をおこなっており、「交わり」は深かった。小島の松山番町教会への「異動」に際しては、霊交会の代表が小島の家族を見送るため、高松駅まで出かけたほどである。

会などの信徒に集会への参加を呼びかけるなど、高松の各教会との「交わり」はさまざまな場面で「活かされ」た [101]。

当該期、「お膝元」高松をも凌ぐほど霊交会と「深い交わり」をもっていたのが、三島真光教会だった。毎年の秋季聖会に霊交会員 10 名ほどを招待していた同教会は、一方で教会学校生徒の大島訪問をおこなうなど、双方向の交流を目指していたようだ。しかしながら、車での移動を含む 2 泊 3 日の三島行はかえって会員の負担が大きく、1979 年には 10 名の定員を満たすのが容易ではないことが表明され、翌 80 年には開催 1 ヶ月前の段階で参加申込者がひとりもないと報じられている。また、三島真光・長島曙・邑久家族・大島霊交の 4 教会は、年 1 回の瀬戸内四教会合同礼拝も続けていたが、霊交会はこれにも次第に参加することが難しくなり、希望者の個人参加へと方針を転じてゆく。それでも霊交会は、自らが主催するクリスマス特別礼拝には、高松教会・三島真光教会から 20 名ほどを招待するなど、「交わり」の糸口を閉ざしはしなかったし、土佐教会が主催する交わりの会にも、3 名の代表者が出向き、「あたたかい愛のご奉仕と差別と偏見を乗り越えた正しい理解に多大の感銘を受けた」という [335]。

霊交会の交流圏は、ときとして瀬戸内・四国をも超えていった。献堂 40 周年に際して聖画の寄贈を申し出たのは尼崎の宮本達之助であり、毎年受け入れを続けていた学生ワーク・キャンプも、神戸大学・関西外国語大学・西宮聖和女子大学など、関西の学生を中心とするものだった。天王寺教会（大阪）は、壮年会・婦人会・青年会が毎年大島を訪れる一方で、霊交会員の来訪と立証を要請している。また関東でも、登戸教会（川崎）の堤薫一とは、堤の来訪をきっかけに交流が続き、東京へ出かけた会員が登戸を訪れて再会を果たしている。このほか、教会・クリスチャンを中心に各地の団体・個人との「交わり」の軌跡が、「断片」的ではあれ『週報』の紙面にはあらわれており²⁴⁾、結婚・転居・入退院・死去などに際して寄せられた近況なども随時紙上で紹介されている。

霊交会あるいはその会員の会外との「交わり」は、それが会外者の来訪によるものであれ、会員の会外への訪問によるものであれ、会外からの働きかけによって実現したものが大半だった。それは、会や会員がつねに、会外者にとっての客体であったことを示してもいよう。そのような情況に

²⁴⁾ 会外との「交わり」は、信仰を介したもののばかりではなかった。霊交会代表が、大阪大学の学園祭に招かれ、「ハンセン氏病対策の過去と将来」と題する講演をおこなったことなども、『週報』は報じている [434]。

対して会員の松野鶴吉は、「大島には多くの来訪者があり、私たちの証しを聞きたいと言われますが、私は逆に世の荒波の中で生活しながら信仰を守っておられる方々のお証しを聞きたい」との主体的意思を表明している [319]。

一般に「らい予防法」にもとづく「絶対隔離」下にあったと理解されている 1973 年に、『週報』は「復刊」された。だが、そこに綴られた当該期の霊交会をとりまく「世界」の「断片」をみるかぎり、霊交会とその会員はおもにキリスト教信仰を介して、会外の多くの団体・個人との「交わり」をもっており、「療養」者が身をおく「世界」は、かならずしも「閉ざされ」続けていたわけではなかった²⁵⁾。ただ、信仰を、病を、文芸活動を通じて「交わり」をもち得た会外は、往々にして点と点の集合としてあり、「交わり」が「深い」がゆえにかえって面的な拮抗りを欠く側面も有していた²⁶⁾。それに加えて、そうした「交わり」が、しばしば会外からの働きかけに対する客体の位置で結ばれていたのである²⁷⁾。このように、点と点の集合としてある会外と客体の位置で結ばれた「交わり」によって「開かれ」た「世界」を生きることが、「療養」者にもった意味については、機会をあらためて論ずることとしたい。

おわりに

(阿部)

わたしにとって 2 回めの大島訪問となった、2005 年 2 月 3 日と 4 日の調査のその初日に、『藻汐草』などの閲覧にさいして、「手綴青松／第 1 号 (S.19 年) より」と「創刊当時の／青松」と記された 2 つの段ボール箱をみていた。そのときは、初期の『青松』があるとおもうくらいで、その後、調査先を文化会館から霊交会教会堂に移すとともに、段ボール箱の所在も念頭から離れてしまった。

25) 大島青松園入園者自治会は、自らの歴史を前掲『閉ざされた島の昭和史—国立療養所大島青松園入園者自治会五十年史』として綴っている。

26) このように考えるとき、『週報』の記事そのものが、さまざまな「交わり」をめぐる「断片」の集積だということに留意しておく必要がある。

27) その結果として、たとえば、会外からの「善意」や「好意」に対して会の実情が追いつかず、それに応じることがかえって負担となったり、ついには限界を来して対応不能に陥る、といった倒錯が生じたりもしている。

それをゆくりなくも思い出し、2009年5月23日から27日までの調査では、あらためてその所在だけを確認し、同年6月27日から7月1日までの調査で、最初にみたときから4年以上を経て、ようやく「創刊当時の」「手綴」じの『青松』をみることができた。箱をみただけで「手綴」じとはあらかじめわかっていたが、現物をみて手書きであることにずいぶんと驚いた。もともと、きちんと『自治会史』を読めば、それが「生ま原稿の荒綴じ」であるとわかったのだが。

また、霊交会教会堂図書室に入れば、『週報』を綴じたファイルがあることもすぐにわかるのだが、それを開いて「霊交 復刊」の文字をみたはずなのだが、たんなる会の広報くらいにしかとらえず、それは整理の順では後回しにしてしまった。わたしたちには、往々にして、古いもののほうを大切にしている傾向があるのかもしれない。『青松』よりは『藻汐草』を、『週報』よりは『霊交』を、そして『青松』の活字版よりも手書き版を、といったぐあいである。かぎられた調査時間のなかでは仕方がないともいえるが、あとの位置からまえをみる、という視点までも排除してはならないとおもう。新しいものは、そのまえとくらべて変化があるから新しいのであり、他方で、あるいは同時に、まえまでのものを継ぐという強烈な意志があるばあいもある。いまを生きるものたちにとって、過去はときに重荷であり、ときにそれは姿見ともなる。

ここで最後に、活字版『青松』の創刊号となる、6巻第1号通巻47新年号(1949年1月)の巻頭言ともいべき文章をみよう。園長野島泰治による「青松生る」である。

国立療養所には昭和十九年迄、印刷になつた患者の文芸雑誌があつて、何れも長い歴史をもつてみたが、戦争中各所の申合せによつてその発行が中止された。／昭和六年以来発刊されていた、大島青松園のこの種雑誌は「藻汐草」というのであつたが、その印刷発行が中止されると病者達は回覧雑誌「青松」を創刊した。

戦時中の物資困窮時代病者の涙ぐましい創意工夫になつたものである。正規の原稿用紙のあろう筈はなく、古い薬包紙、薬袋を裏返したもの、雑誌の余白を利用したもの等々、それが又きちんと製本されたものであつた。／不自由な病者の手につづられた肉筆そのものであるだけに、読む人の心を打つた。／その月刊一冊々々が当時の癩患者の実生活をその儘表現したものとていへよう、病者の文芸に対する憧憬が如何に熾烈であつたかを物語るものであつた。

月一回のこの回覧雑誌が、戦時戦後の無味乾燥は、ともすれば乱れ勝ちな療養生活にいかにか大きな潤

いを齎らし、いかに多くの心の糧を与えたか実に計り知れないものがある。／もしこの「青松」が将来写真版としてでも出版しうる機会でもあるならば、戦時戦後の一裏面を語る社会の好参考資料たることを信じて疑はない。

終戦以来各癩園の機関雑誌は印刷として、次ぎ次ぎと復活したが「青松」のみは経費の関係で著しく遅れた、今日迄内外不出の園内回覧雑誌としてつづけてきたが、それが二十四年新春より初めて印刷として、ありし日の「藻汐草」に代つて印刷「青松」が誕生したわけである。／ささやかな小誌ではあるが、偽らない癩者の真の叫びを聞いて、癩に対し病者に対し癩園に対し、真の理解をもつ人が一人でも多くなる様に新生「青松」の前途幸あれかしと祈る。

——あらたに誕生した活字版『青松』が、第6巻通巻47、1949年発行ということは、第1巻の発行が1944年となり、いちばん最初の発刊年においても、また通巻数でも、1944年創刊で第46号まで発行がつづいたという手書き版『青松』を継いでいるとあらわしたのである。活字版『青松』が第12巻第3号通巻100号（1955年3月10日）となったとき、その口絵に「園内版当時の『青松』」の写真3葉を載せている。島内の刊行物が通巻100号となったとき、その始まりを知るものたちは手書きだったことを顧みたのである。『週報』においても、おりおり、会の始まりやその歴史がふりかえられている。

いまわたしたちは、こうした史料をどのように読むのか——たとえば、そこに「戦時戦後の一裏面」としての「癩患者の実生活をその儘表現」してあるとみるだけでは不十分にすぎる。療養所での生活が「一裏面」とされてしまったり、その元で「偽らない癩者の真の叫び」を伝えなくてはならないと確信されるにいたりした仕組みをとらえ、療養所という場に交差するいくつもの力や思いや制度や運動の関係をつかまえて、それらの総体として「癩」という出来事を考えることになるとおもう。そうした考察を可能とするためにも、いま療養所になにが残っているのか、なにが失われてしまったのかの基本台帳をつくる必要がある。

文献目録

阿部安成 2008 「資料紹介 長田穂波日記 1936年—療養所のなかの生の痕跡」(1)『彦根論

- 叢』第 370 号 (1 月)、同(2)同前第 373 号 (6 月)、同(3)『滋賀大学経済学部
研究年報』第 15 卷 (11 月)、同(4)完『彦根論叢』第 375 号 (11 月)
- 2009 a 「国立療養所大島青松園キリスト教霊交会蔵書について—香川県大島の療養
所を場とした知の蓄積と発信」滋賀大学経済学部 Working Paper Series
No.107 (3 月)
- 2009 b 「大島の生、島をめぐるレターズ—香川県大島の療養所を場とした知の動態」
滋賀大学経済学部 Working Paper Series No.109 (4 月)
- 2009 c 「史料紹介 長田穂波の痕跡—療養所の生のあらわし方」『ハンセン病市民
学会年報 2008』(4 月)
- 2009 d 「国立療養所大島青松園 (香川県高松市) における知の集積と表明について
の文化研究」『第 3 回瀬戸内海文化研究・活動支援助成報告書 (平成 20 年度)』
財団法人福武学術文化振興財団 (5 月)
- 2009 e 「療養所の生—国立療養所大島青松園キリスト教霊交会の蔵書を考える」『住
んでよし、訪れてよし—私の瀬戸内海の文化力』瀬戸内海文化研究・活動支
援助成対象者による寄稿集、財団法人福武学術文化振興財団事務局 (5 月)
- 2009 f 「資料紹介 『霊交』にあとがきを記す。—香川県大島の療養所をあらわす
点描」(1)『彦根論叢』第 378 号 (5 月)、同(2)同前第 379 号 (7 月)、同(3)
第 380 号 (11 月発行予定)、同(4)『滋賀大学経済学部研究年報』第 16 卷 (11
月発行予定)
- 2009 g 「ゆくりなくも—国立療養所大島青松園キリスト教霊交会 2009 年 4 月・5
月調査報告」滋賀大学経済学部 Working Paper Series No.113 (6 月)
- 2009 h 「療養所の歴史を縁どる—過去との乱取り」(1)『青松』通巻第 647 号第 66
巻第 4 号第 7・8 月号 (8 月)、同(2)同前通巻第 648 号第 66 巻第 5 号第 9・10
月号 (10 月発行予定)、同(3)同前通巻第 649 号第 66 巻第 6 号第 11・12 月
号 (12 月発行予定)
- 2009 i 「「底」をみつめる—国立ハンセン病資料館企画展「ちぎられた心を抱いて」

展によせて、大島療養所の逐次刊行物『藻汐草』から子どもの作品を転載する」滋賀大学経済学部 Working Paper Series No.114 (8月)

手書き版『青松』掲載記事索引

(阿部)

『青松』には、奥付はなく、号によっては目次がついている。表紙や扉に記された情報からその発行のようすを示し、つぎに目次をあげ、さらに目次とはべつに収載記事の件名をあげた(誌名号数、発行年月日：目次=収録記事等件名の順で記す。情報がないばあいは*であらわす。〔 〕は阿部による。それぞれの稿の執筆年月日などが記されているばあいは、たとえば「昭和十九年十一月二十日記」を1944.11.20記のように表記した。「 」のまえに筆者名も*もないものは大見出しをあらわす)。

この『青松』は現在、No.22、No.26~43、No.45、No.46が欠号となる。

『青松』第一号、昭和十九年十一月卅日発行：巻頭言／「神武の精神」土谷勉／「団栗の叫び」浅野繁／「島庵独語」穂波生／「随筆」笠居誠一／「日本の文章道」保田与重郎／「歌集「松籟」「星霜」の出版を祝して」藻汐短歌会同人／「俳句」喜田正秋／あとがき

= [新聞切抜「救癩事業に御内帑金」] / * [目次] / 土谷勉「巻頭言」 / 土谷勉「神武の精神」 / 浅野繁「団栗の叫び」 / 穂波生「島庵独語」1944.11.20記 / 笠居誠一「随筆」11.27夜 / 土谷勉「日本の文章道、新若人十二月号保田与重郎」 / 「昭和十九年拾壹月／短歌／歌集松籟星霜を祝してほか」 / 小宮山和夫「松籟。星霜を祝して」 / 綾井譲「松籟、星霜二歌集の出版を祝して」 / 田根正夫「松籟。星霜を祝して」 / 斉木操「霜月詠」 / 志真郁夫「神風譜」 / 泉俊夫「身辺雑詠」 / 喜田正秋〔俳句〕 / 土谷勉「あとがき」1944.11.29記 / 「読后独語」

『青松』第三輯、*、[表紙に「恩賜松素描」のイラスト]：「恋闕の至情」土谷勉／「長歌 六月二十日」斉木操／「短歌」笠井誠一、志真郁夫、泉俊夫、斉木操、赤沢、浅野繁／「島庵独語」穂波生／「俳句」喜田正秋／「小品 軍人精神」斉木操

= * 「巻頭言」 / * 「目次」 / 土谷勉「恋闕の至情」 / 土谷勉〔俳句二句〕 / 土谷勉〔『青松』命名

の所以] / 芥木操「和歌」習作帳ヨリ 6.20 作 / 笠居誠一「近詠」 / 志真郁夫「神風譜 (二)」 / 芥木操「短歌」 / 泉俊夫「短歌詠草」 / 綾井讓「短歌」 / 赤沢正美「雑詠」 / 浅野繁「空襲」 / 穂波生「島庵独語」 / 喜田正秋「俳句」 / 芥木操「習作」 / [後欠]

『青松』第三巻、昭和二十年一月二十二日：「巻頭言」 / 「文の道」土谷勉 / 「神風譜 (短歌)」志真郁夫 / 「島庵独語」長田穂波 / 「短歌」笠居誠一 / 「神韻 (短歌)」浅野繁 / 「短歌」綾井讓 / 「特攻隊 (短歌)」泉俊夫 / 「ヨ約の真似」芥木操 / 「俳句」喜田正秋 / 「『青松』の誕生を祝して」芥木操 / 「あとがき」土谷勉

=* [目次] / [「大近松 坂内青嵐筆」貼付] / [新聞切抜 / 川田順「乙酉元旦」 / 斎藤茂吉「皇国の春」 / 橋本閑雪「近詠」] / 土谷勉「巻頭言」 / * 「青山荘、林先生のお便りの一節」 / 土谷勉「文の道」 / 土谷勉「作品 (俳句)」 / [新聞切抜 田村木国「詠魂即鬪魂」 / 志真郁夫「短歌 神風譜 (三)」 / 長田穂波「島庵独語 (3)」 1.13 記す / 笠居誠一「短歌」 / 浅野繁「神韻」 / 綾井讓「短歌」 / 泉俊夫「短歌 特攻隊」 / 芥木操「間に合わせ書 / 予約の真似」 / 喜田正秋「俳句」 / 芥木操「青松の誕生を祝して」 / 土谷勉「あとがき」 1.22 / [書簡 2 通] / [読後感か]

『青松』第四巻、昭和二十年二月発行：「巻頭言」 / 「追悼短歌会」荒木暢夫 / 「噫、久米良寛氏」総代石本俊市 / 「忠魂に祈る」土谷勉 / 「悼、久米良寛氏」長田穂波 / 「久米さんを悼む」喜田正秋 / 「故久米さんを偲びて」泉俊夫 / 「短歌作品」大田井敏夫 / 「短歌作品」田根正夫 / 「短歌作品」笠居誠一 / 「短歌作品」浅の繁 / 「短歌作品」芥木操 / 「短歌作品」小見山和夫 / 「短歌作品」綾井讓 / 「俳句作品」藤田薫水 / 「詩作品」松田美津夫 / 「創作 正夢」芥木操 / 「随筆」青山荘主人 / 「俳句作品」香山爽子 / 「島庵独語」長田穂波 / 「短歌作品」笠居誠一 / 「短歌作品」浅野繁 / 「愚感」笠居誠一 / 「短歌作品」田根正夫 / 「自句自解」喜田正秋 / 「大島学園綴方」戸田次郎、中島勇、庫元和枝

=* 「目次」 / [「亀山上皇 高橋観石筆」貼付] / 勉「巻頭言」 / 「牧野大尉殿、久米良寛殿追悼讃仰歌会詠草 (於荒木暢夫氏方 / 昭和二十年二月十一日)」 / 入園者総代石本俊市「噫、久米良寛氏」 / 土谷勉「忠魂に祈る」 / 大田井敏夫「久米良寛兄追悼詠」 / 田根正夫「短歌」 / 長田穂波「悼久米良寛氏」 / 笠居誠一「故桑良寛氏之英霊に捧ぐ」 / 喜田正秋「久米さんを悼む」 / 泉俊夫「故米良寛様を偲びて」 2.11 / 浅野繁「この貧しき歌を久米良寛兄に捧ぐ」 / 藤田薫水「追悼句」 / 綾井讓「久米良寛氏を憶ふ」 / 土谷勉「英霊への原稿のあつかい」 / 芥木操「短歌 / 散華せし久米良寛氏を偲びて」 / 小見山和夫

「短歌／久米良寛氏の英霊を偲ぶ」／松田美津夫「詩“久米氏追悼の詩”」／林文雄「追悼久米兄」／斉木操「創作／正夢／“之ノ一文ヲ久米良寛氏ノ御遺族ニ贈ル”」／林文雄「大塚兄」／〔切抜 中谷宇吉郎「雪と爆弾」〕／香山爽子「俳句」／＊「潮音」／長田穂波「島庵独語（4）」／笠居誠一「短歌」／＊「潮音」／浅野繁「雑炊讃」／笠居誠一「愚感」2.11 夜記／田根正夫〔短歌〕／喜田正秋「自句自解（一）」／高一戸田次郎「決戦下の正月」／高一中島勇「昭和二十年を仰へて」／六年庫元和恵「玉廻し」／勉「あとがき」／〔感想欄〕／「青山荘だより」／「廻順」

『青松』第五号、故北山謙三氏追悼号、＊：「花は散る」／「故人の遺詠」／「弔辞」総代石本俊市／「死」について 土谷勉／「憶北山謙三君」穂波生／「短歌 北山君を憶ふ」歌会同人／「俳句 北山君を憶ふ」句会同人／「詩 思ひ出」松田美津夫／「詩 かたみわれら」斉木操／「短歌」歌会同人／「非願父」斉木操／「潮音」／「児童作品」／「後記」

＝＊「目次」／＊「巻頭之言葉にかえて、力の泉より」／笠居誠一「故北山君之遺稿」／総代石本俊市「弔辞」1945.2.17／土谷勉「死」について 1945.2.24／穂波生「憶北山謙三君」1945.2 大雪の朝／岩田ノブ「故志真郁夫氏ニ捧グ」／小見山和夫「短歌／志真郁夫氏をいたむ」／浅野繁「虚日」／田根正夫「志真氏を偲びて」／笠居誠一「故志真郁夫君を憶ふ」／斉木操「故北山悠雪氏を悼む」／綾井讓「故人を偲ぶ」／喜田正秋〔俳句〕／香山爽子「俳句」／大原枝風〔俳句〕／松田美津夫「詩“故北山謙三氏追想の文”」4.4／斉木操「自由詩／かたみわれら」／＊〔日記帳断片 6月5日～6月8日〕／＊「宿直」／＊〔日記帳断片 1月26日・27日〕／小見山和夫「畏みて」「詠草」「硫黄島勇士に贈る歌」／浅野繁「冬相」／泉俊夫「短歌詠草」／笠居誠一「短歌」／斉木操「短篇／悲願父」1945.2 記／＊「潮音」／初六山口忠夫「あこがれの海」／初四中島徳吉「飛行機」／初四中井八千代「飛行機」／〔水彩画〕／笠居誠一「後記」／黄葉夕陽村舎人「読後感」／「廻順番」

『青松』第六号、故上本隆重氏追悼号、＊：「巻頭言」／「弔辞」石本俊市／「憶上本隆重君」長田穂波／「随想（遺稿）」故上本隆重／「上本兄の想出」井上真佐夫／「上本さんは生きてゐる」土谷勉／「昼」初六山口忠夫／「眠られぬ夜（遺稿）」故上本隆重／「憶上本隆重君（短歌）」笠居誠一／「上本隆重氏を悼む（短歌）」小見山和夫／「上本氏追悼俳句」大原枝風／「潮音」土谷勉／「豚さがし」高一山上広光／「初めての敵機の爆音」高一岡崎安彦／「のみ」高一大西哲司／「憶栗林中将」笠居誠一／「昼」初四中島徳吉／「俳句」喜田正秋／「俳句」藤田薫水／「短歌」笠居誠一／「短歌（父の死他）」斉木操

／「短歌」泉俊夫／「短歌」小見山和夫／「短歌」浅野繁／「久米良寛氏を悼む」川染先生／「後記」

／土谷勉「防空座談会」

＝＊「目次」／＊「巻頭言」／総代石本俊市「弔辞」1945.3.3／長田穂波「噫上本隆重君」／＊「故上本隆重氏の日記の一節」／井上真佐夫「上本兄の想出」／土谷勉「上本さんは生きてゐる」4.1記／初六山口忠夫〔戦艦水彩画〕／＊「故上本隆重氏の日記の続き」／笠居誠一「噫上本隆重君」／小見山和夫「上本隆重氏をいたむ」／勉〔征旗二月号大木惇夫寄稿文〕／土谷勉「潮音」／高一山上広光「豚さがし」／高一岡崎安彦「初めての敵機の爆音」／高一大西哲司「のみ」／勉〔内田先生へ歌集送付〕／内田守人「消息に代へて」／笠居誠一「噫栗林中将」3.27夜記／土谷〔印〕「潮音／日本一の刑法」／〔高二戸田次郎か／戦闘機水彩画〕／喜田正秋「俳句」／藤田薫水「俳句」／笠居誠一「短歌」／斉木操「短歌」／“父の死”其ノ一／泉俊夫「短歌詠草」／小見山和夫「神朝特攻隊を讃ふ」「硫黄島の神兵を偲ぶ」／浅野繁「太刀を磨ぐ嬢子に与ふる歌并短歌」／〔書簡〕／綾井「後記」／青山荘主人〔読後感〕／勉〔防空問題について〕／文責在記者、土谷〔印〕「防空座談会」4.6／〔批評感想〕／「廻順」

『青松』第七号、昭和二十年四月発行：「巻頭言」／「週言」／「愚感」笠居誠一／「百姓の話」土谷勉／「島庵独語」長田穂波／「潮音」／「短歌」笠居誠一／「潮音」／「俳句」喜田正秋／「耐乏生活」井上真佐夫／「自句自解 二」喜田正秋／「短歌」小見山和夫／「青山荘だよりの病床短歌評」／「記紀の歌から」斉木操／「長歌 硫黄島の益良夫に捧げまつる歌」浅野繁／「児童作文」山上広光外／「音信」今村次郎／〔後記〕

＝＊「目次」／〔「吉野（森月城筆）」貼付〕／＊「巻頭言」／〔切抜「週言」〕／笠居誠一「愚感」／〔切抜「決戦手帖」〕／土谷勉「百姓の話」／穂波生「島庵独語」1945.4.17記／土谷〔印〕「潮音 2」／笠居誠一「短歌」／土谷〔印〕「潮音（1）」／喜田正秋「俳句作品」／繁記写「“万葉集新解” 武田祐吉著」／井上真佐夫「随筆 耐乏生活」／喜田正秋「自句自解」／小見山和夫「短歌」／浅野繁「青山荘だよりの病床短歌批評」4.21／林文雄〔読後感〕4.28／斉木操「短歌鑑賞／記紀の歌から」／浅野繁「硫黄島の益荒雄に捧げまつる歌并短歌」／初五中井八千代「お風呂」／高一庫元和恵「風呂」／高二岡崎安彦「南京虫」／高二戸田次郎「電信線の露」／高二大西哲司「故郷の思ひ出」／高二山上広光「藤の花」／〔書簡〕／繁「あとがき」／青山荘主人「青山荘だよりの」／林東風「隣家の幼児病歿す、母親と老母の方を慰めて」／「廻順」

『青松』第八号、二〇. 五. 一五日：「短篇小説 春菜」土谷勉／「ビルマ通信を拝見して」井上真佐夫
／「随筆 故郷への道」斉木操／「武田祐吉著 万葉集新解」浅野繁／「短歌 ドイツ敗れたり」浅野繁／
「短歌 玉歩」小見山和夫／「短歌 雑詠」綾井譲／「短歌及長歌」笠居誠一／「短歌 敵機ほか」泉俊夫
／「自句自解」喜田正秋／「俳句作品」喜田正秋／「俳句作品」大原枝風／「長詩 霊波はおどる」松田
美津夫／「短詩 空」笠居誠一／「短詩 涙」泉俊夫／〔児童作品〕根本常二、大西哲二、畠山一義、戸
田次郎、岡崎安彦、中島徳吉、中井八千代、須内キヨカ、庫元久子

＝＊「目次」／村上華岳「五月の言葉」／土谷勉「短篇小説／春菜」／勉、土谷〔印〕「潮音」／土谷
〔印〕「潮音」／土谷〔印〕「潮音」／土谷〔印〕「潮音」／井上真佐夫『「ビルマ通信」を拝見して』／
＊「潮音」／斉木操「随筆／故郷への道」5.10 午後記／＊「万葉集新解 武田祐吉著」／浅野繁「短歌作
品／“ドイツ敗れたり”」／小見山和夫「短歌／玉歩」／綾井譲〔短歌〕／笠居誠一「長歌」「反歌」／
笠居誠一「楓の花」「反歌」「習作」／泉俊夫「短歌詠草 敵機ほか」／喜田正秋「自句自解（三）」／喜
田正秋「俳句作品」／大原枝風〔俳句〕／松田美津夫「長詩／“霊波はおどる”」1945.4.7 完成す／笠井
〔誠一〕「詩「空」」／泉俊夫「詩 涙」／高二根本常二「精神一到何事かならざらん」／高二大西哲司「飛
行雲」／初六畠山一義「卵」／初四須内キヨカ「炊事」／三年庫元久子「ふろ」／高二大西哲司〔風景
水彩画〕／高二戸田次郎〔野菜水彩画〕／高二岡崎安彦〔風景水彩画〕／初五中島徳吉〔戦場水彩画〕
／初五中井八千代〔風景水彩画〕／泉俊夫〔随想〕／「感想欄」／＊「青山荘だより」／医局「藤の花」
輪読会／＊〔青山荘だよりのつづきか〕

『青松』第九号、＊：「戦友愛」井上真佐夫／「駆虫」土谷勉／「万葉集新解」武田祐吉著／「機雷監
視哨の歌」浅野繁／「長歌 沖縄の少年を憶ふ」笠居誠一／「機雷監視所を訪ふ」笠居誠一／「短歌 沖
縄島」綾井譲／「短歌 赤沢正美」／「短歌 監視哨抄」泉俊夫／「俳句作品」吉田正秋／「機雷監視」松
田美津夫／「つづやき」小見山和夫／「念々句生」斉木操／「児童作品」／「後記」

＝＊「目次」／＊「筑波岳に登りて丹比真人国人の作れる歌」／井上真佐夫「随筆 戦友愛」／土谷勉
「駆虫」／＊「神皇正統記より」／＊〔出征者の連絡先〕／＊「潮音」／土谷〔印〕「潮音 馬鈴薯のこ
と」／＊「園内状況（六月一日調）」／＊「万葉集新解（三）武田祐吉著」／浅野繁「短歌作品／機雷
監視哨の歌」／笠居誠一「長歌「沖縄の少年を憶ふ」「ビルマ通信を読みて」」／笠居誠一「機雷監視所
を訪ふて」「防空壕掘り」／笠居誠一「短詩「雲」」／綾井譲「短歌／“沖縄島”」／赤沢正美「短歌」／

泉俊夫「短歌 監視哨抄」／喜田正秋「俳句作品」／喜田正秋「自句自解（四）」／松田美津夫「詩／機雷監視」5.27／松田美津夫「詩／奉仕」5.27／小見山和夫「つぶやき」／小見山和夫「短歌／防空壕」奉仕団員に」／斉木操「“夜明け前”に因みて／念々句生」支語」1945.5.29 記／斉木生「林先生へ」／初四須内キヨカ「つばめの子」／初五中島徳吉「風呂」／高二大西哲司「遠足」／高二山上広光「果物」／高二赤松清子「雨」／＊「後記」／青山荘主人〔読後感〕5.6／「廻順」

『**青松**』第拾号、昭和二十年七月一日、〔表紙に「大島風景の写真を入れます」と鉛筆書きがあるが写真はない）：「巻頭言」／「園長先生を犒ふ夕」／「放送作品」／「豚と南公」高野六郎／「隨筆」土谷、浅野、斉木、笠居、小見山／「短歌作品」短歌会同人／「俳句作品」俳句会同人／「自句自解」喜田正秋／「詩」松田美津夫／「青松九号短歌作品合評」／「青松園の俳句」林東風／「あとがき」

＝＊「青松第十号序」／〔肖像写真〕／〔短歌一首〕／＊「巻頭言」／＊「園長先生を犒ふ夕」（所内放送）／穂波生「園長^{おとふさん}をたゝふ！」／今井比沙志「園長先生」／泉俊夫「短歌」／笠居誠一〔短歌〕／小見山和夫〔短歌〕／斉木操「園長讃歌」／「俳句」／高二戸田次郎「園長先生」／初五中井八千代「園長先生」／＊〔「小野の道風」芝居台本か〕／小見山和夫〔短歌〕／太田井春峰「青松俳句」／〔切抜 高野六郎「豚と南瓜」〕／岩崎緑雲「蛙」／＊「潮音／園況（七月上旬）」／土谷勉「南瓜のはなし」／〔切抜 三好達治「鳶なく」〕／あさの、しげる「胡瓜」6.25 記／〔切抜 瀧口武士「草刈」〕／斉木操「隨筆／農園漫遊」／喜田正秋／「俳句作品」／〔切抜 北村秀雄「玉蜀黍」〕／小見山和夫「忘れぬうち」／笠居誠一「汗」／小見山和夫「つぶやき」／〔初五中井八千代団扇水彩画〕／土谷〔印〕「祝「若葉」の創刊」／笠居誠一「短歌」／泉俊夫「短歌詠草」／綾井讓〔短歌〕／小見山和夫「短歌／日日のうた」／浅野繁「短歌作品／「戦列の息吹」」／喜田正秋／「自句自解 五」／松田美津夫「詩／留守居」6.18「詩／花」詩／夢ならぬ夢」感想／今日一日」／笠居記「青松第九号短歌作品合評」／林東風「青松園の俳句」／高二大西哲司〔風景水彩画〕／〔書簡〕／土谷勉「あとがき」／林文雄〔読後感〕／＊「青山荘だより」

『**青松**』第十号、高松戦災特輯号、昭和二十年八月上旬発行：「巻頭言」／「雷の丘（万葉研究）」小見山和夫記／「米鬼の遺物（補助タンク説明）／蛆療法」林文雄博士／「武士の嗜み」土谷勉／「七月四日」小見山和夫／「一塊の炭（詩）」松田美津夫／「短歌欄」笠井・小見山・泉・斉木・田根・浅野／「俳句欄」岩崎・喜田・香山・大原・太田井／「自句自解」喜田正秋／「感想二つ」笠居誠一／「解

決者(感想) 松田美津夫 / 「読書から得た戦局への思考」 斉木操 / 「縷紅草(監視哨随筆)」 / 「あとがき」 浅野繁 / 「挿画」 中井・中島

＝＊「目次」 / ＊「巻頭言」 / 小見山和夫記「雷の丘」 / 青山荘主人「TANK 二つ / 蛆療法」 / 土谷勉「武士の嗜み」 / ＊「七月下旬各室収入表」 / 小見山和夫「七月四日」 / 松田美津夫「詩 / “一塊の炭”」 7.27 / 笠居誠一「短歌」 / 小見山和夫「短歌 / 空襲三題」 / 泉俊夫「青松号詠草」 / 斉木操「短歌 / 凄絶」 / 田根正雄「短歌」 / 浅野繁「短歌作品」 / 岩崎緑雲「蟬」 / 喜田正秋「俳句作品」 / 香山爽子「俳句」 / 大原枝風「高松空襲の日」 / 大田井春峰「俳句」 / 喜田正秋「自句自解」 / 笠居誠一「感想二つ」 7.20 記 / 松田美津夫「感想 / “解決者”」 2.29 / 斉木操「読書から得た戦局への思考」 / ＊「監視哨随筆 / 縷紅草 / 雲井寮備品」 / ＊「初期号評(文雄先生)」 / ＊「あとがき」 / ＊「青山荘から」

『青松』12号、昭和二十年九月十五日発行：＊

＝勉「巻頭言」 / 綾井譲「短歌」 / ＊「20/8月号青山荘主人読後記」 / 浅野繁「短歌詠草 / 八月十五日」 / 笠居誠一「短歌近詠 / 八月十五日」 / 長田穂波「燃ゆる心」 1945.9.3 涙作 / 土谷勉「八月十五日以後」 / 勉「俳句」 / 大田井春峰「夢」 / 大塚一「腹の声」「温い新化学」 / 土谷〔印〕〔解題〕 / ＊「自肅自戒強調に当りて」 / 松田美津夫「詩 / “罪人の声”」 / 松田美津夫「感想 / “日ノ本の国”」 8.6 夜半 / 多田勇「俳句」 / 久我剛「青松俳句」 / 香山爽子「俳句」 / 喜田正秋「噴井」 / ＊「『すめらみこと』の御義」 / 勉「あとがき」 / 岩崎緑雲「虫」 / 土谷〔印〕「潮音」 / 〔断簡〕 / 勉「廻順」

『青松』第十三巻、昭和二十年十月十日発行：「巻頭言」 / 「鶏頭花図」 / 「神風は吹いてゐる」長田 / 「秋窓楽書」小見山 / 「短歌作品」笠居、綾井、浅の、泉、赤沢、小見山 / 「俳句作品」多田、喜田、久我、薫水、上野、大田井、香山 / 「中秋名月短俳合同会記」笠居 / 「梓弓と梓行」小見山 / 「回覧板(十一区)」組長 / 「座談会記事」土谷 / 「後記」

＝＊「序(第十三巻)」 / 勉「巻頭言」 / 和夫〔短歌〕 / 穂波生「神風は吹いてゐる」 1945.9.末記す / 小見山和夫「秋窓楽書」 10.2 / 笠居誠一「短歌」 / 綾井譲〔短歌〕 / 浅野繁「颯風以後」 / 泉俊夫「青松詠草 短歌」 / 赤沢正美「青松詠草」 / 小見山和夫「短歌 / 切断」 / 多田勇「俳句」 / 喜田正秋「夜光虫」 / 久我剛「俳句雑詠」 / 藤田薫水「雑詠」 / 上野青翠「俳句(農村風景)」 / 大田井春峰「雑詠」 / 勉〔俳句〕 / 香山爽子「病臥」 / 笠居「中秋名月短俳合同会記」 / 小見山和夫記「梓弓と梓行」 / 第一〇区隣組編「斯くて益々忘るべからず」 / 土谷勉「座談会 / ◎蒙古の話 / ◎進駐軍の話」 9.30 / 土谷勉

「後記」 10.10 / * 「東京戦災の一親戚青年の手紙」 / 「廻順」

『**青松**』第十四号、**青松一週年記念号**、昭和二十年十一月七日発行：「巻頭言」 / 「図画（柿の秋）」

初三庫元久子 / 「松籟海鼓」長田穂波 / 「青松一週年座談会（十月二十八日夜）」土谷勉記 / 「青松一週年を迎へて」浅野繁 / 「“青松”投稿者統計表」 / 「短歌」笠居誠一、綾井譲、泉俊夫、赤沢正美、浅野繁、斉木操 / 「図画（針箱）」高二赤松清子 / 「短歌合評（青松十三号より）」 / 「俳句」喜田正秋、上野青翠、香山爽子、多田勇、藤田薫水、久我剛、大原枝風 / 「俳句合評」 / 「十三号を読み（感想）」小見山和夫 / 「図画（雲）」高一山口忠夫 / 「看護婦さん独唱会余滴」土谷勉 / 「敗戦の自責に悩む義兄へ」斉木操 / 「南方の話」出席者河野、長瀬、篠原諸兄、土谷勉他有志 / 「図画（菊）」高二戸田次郎 / 「あとがき」

＝*「青松十四号目次」 / * 「巻頭言」 / * 「柿水彩画／裏面 椎茸水彩画」 / 長田穂波「松籟海鼓」 / ほなみ生『詩』の教室 / 土谷勉記「青松発刊／一週年記念座談会（十月二十八日夜）」 / 出席者 総代 石本俊市 / 庶務部主任 三木康平 / 青松を育てた人々 / * 「潮音」 / 浅野繁「感想」 / 「青松」一週年を迎へて」 20.11.1. / * 「“青松”投稿者統計表」 / 土谷勉「看護婦さんの珍しい独唱会（十一月二日十九時半より）」 / * 「短歌等創作表」 / 笠居誠一「短歌」 / * 「短歌」 / 綾井譲「短歌」 / 泉俊夫「短歌詠草／秋惜秒五首」 / 赤沢正美「青松詠草」 / 浅野繁「青松短歌／颱風以後」 / 斉木操「短歌／敗戦」 / * 「潮音」 / 高二赤松清子「針箱水彩画」 / * 「青松第十三号短歌合評」 / 喜田正秋「俳句作品／雑詠」 / 上野青翠「青松俳句」 / 香山爽子「秋を病む」 / 多田勇「俳句雑詠」 / 藤田薫水「秋雑詠」 / 久我剛「青松俳句」 / 第拾五号大原枝風「終戦の御聖旨を拝して」 / * 「俳句合評」 / 小見山和夫「十三号を読み」 / 高一、山口忠夫「海、島、空水彩画」 / * 「看護婦さんの珍しい独唱会余滴」 / 斉木操「随筆／敗戦の自責に悩む義兄へ」 10.0 / 土谷勉他有志「南方の話」 / 深尾須磨子「詩」 / * 「青山荘だより」 / 「終戦連絡中央事務局からの療養所消息の照会」 / * 「あとがき」 / * 「花水彩画」

『**青松**』拾五卷、**故大塚一氏追悼号**、昭和二十年十二月発行：「弔辞」（総代）石本俊市 / 「祭詞」大田垣益市 / 「個人の略歴」 / 「噫、大塚一氏を悼む」穂波 / 「遺言書その他」 / 「故大塚さんと私」熊野源市 / 「大塚さんを偲びて」斉木操 / 「大塚さん」小宮山和夫 / 「晩秋」大原枝風 / 「謙遜な大塚さん」（園長）野島泰治 / 「大塚さん」林文雄 / 「短歌作品」浅野、綾井、泉、笠居 / 「俳句作品」林、中村、大原、香山、西村、若杉、小田 / 「巻頭言」 / 「あとがき」 / 「松籟海鼓」長田穂波 / 「青松十四

号短歌合評／俳句合評」／「俳句」喜田、林、中村、藤田、多田、久我／「短歌」／「読書所感／文字の興味」斉木操／「詩」久我剛／「建設らん」／「宗教別信徒数」／「作業状況」／「生甘藷配給実績」／「ものはづけ」勉／「蕪村全集より」＝石〔＝は火へんに介〕

＝＊「青松十五卷故大塚一氏追悼号目次」／「御遺族に贈呈する浄書した別冊に挿入の口絵（あとがき参照）」／土谷勉「巻頭言」／総代石本俊市「弔辞」1945.10.31／＊「故大塚一氏協和会役員略歴」／＊「捨日祭詞」／大塚一「遺言書」1945.2.11／＊〔葬儀次第など〕／園長野島泰治述「謙遜な大塚さん」／林文雄「大塚さん」／浅野繁「追悼歌／秋風落莫」／穂波生「噫大塚一氏を悼む」／熊野源一「故大塚先生と私」／熊野源一「故大塚先生を追憶して」／小見山和夫「大塚さん」11.23／大原枝風記「晩秋」／斉木操「（大塚さんを偲びて）／忘れ得ぬ第一印象」／林東風「弔大塚兄／俳句習作／破船」／綾井譲「故大塚一氏の霊に送る」／泉俊夫「短歌／故大塚一氏をしのびて外」／第六号室中村漏井「ひさご句会」／大原枝風「俳句」／五十一号西村金星「ひさご句会」／香山爽子「故大塚一氏追悼二句／隠栖「ふかし藪」／笠居誠一「故大塚一大人憶ふ」／小田暁生「故大塚先生を追憶して」／若杉明楽「大塚先生追弔俳句」／浅野繁「製塩点描」／穂波生「松籟海鼓／新日本建設と青松園の巻」／赤沢正美「青松詠草」／笠居誠一「短歌」／＊「潮音＝十一月下旬作業状況」／小見山和夫「雑詠」／＊「青松第拾四号短歌合評」／A生「明朗」／久我剛「詩／秋の訪」／喜田正秋「雑詠」／林＝石〔＝は火へんに介〕「雑詠」／第六号室中村漏井「随意句」／上野青翠「青松俳句」／藤田薫水〔俳句〕／多田勇「青松俳句」／久我剛「俳句」／斉木操「習作俳句／秋のメモ」／五十一号西村金星「俳句」／＊〔俳句合評〕／土谷〔印〕「各宗教別信者数（十二月一日調）／＊「十二月上旬作業状況」／土谷〔印〕「生甘藷配給実績（十二月一日まで）」／斉木操「読書所感」＝病床記／東風選「御恵みの日」のものはづけ募集／土谷〔印〕「お知らせ」／＝石「蕪村全集より」〔＝は火へんに介〕／斉木操「（メモ）／文字の興味」／土谷〔印〕「あとがき」／＊「東風だより」11/XⅡ／＊「廻順」

『青松』拾六巻、田中先生、三浦様、特別感謝号、昭和二十一年一月発行：「写真」／「巻頭言」／「田中先生、三浦様」土谷勉／「誠心には真心で」（議長）熊野梅香／「平素の感謝を筆に代へて」（副議長）松本音松／「恩恵の数々」久我剛／「感謝」（園長）野島泰治／「感謝の辞」（総代）石本俊市／「感謝に代へて」笠居誠一／「短歌作品」岩瀬、小見山、赤沢、斉木、笠居、浅山、泉、綾井／「俳句作品」大原、多田、久我、香山、笠居、大田井、辻、喜田、上野、藤田／「子供の四季」浅野繁／「綴方」赤

松、山上、中井、岡崎／「青松十五卷／短歌／俳句／合評会」誠一、枝風／「詩、みなし子」 斉木操／
「歳末弁（蕪村より）」 笠居誠一／「同人各位へお報せ」／「園内作業状況」／「餅つき」／「句友頑張れ」
／「田中先生の御言葉」／「張切る児童」／「短歌作品目次」／「俳句作品目次」／「あとがき」
＝〔集合写真 田中先生か〕／〔個人肖像写真〕／〔甘藷写真〕／＊「青松第十六卷目次」／勉「巻頭
言」／野島泰治「感謝」／総代石本俊市「感謝の弁」1945.12.27 急稿／熊野梅香「誠心には真心で」12.22
／松本音松「平素の感謝を筆に代へて」／久我剛「恩恵乃数々」／＊「作業状況（十二月三十一日現在）」
／笠居誠一「感謝に更へて」／土谷勉「田中先生、三浦様」／＊「餅搗」／＊「短歌作品目次」／岩瀬
弘美「短歌」／小見山和夫「短歌／謝恩」／赤沢正美「田中、三浦両先生に謝す歌／病怨」／斉木操「懐
しき真人」／斉木「詩／みなし子」／小見山和夫「元旦にうたふ」／笠居誠一「除夜の鐘」／浅山稔「作
品」／笠居誠一「短歌 切断拾首」／小見山和夫「短歌／乳いろの冬」／綾井譲「短歌」／斉木操「習作
短歌 新任」／泉俊夫「短歌」／＊「作品（俳句）」／大原枝風記〔俳句〕／多田勇「青松俳句」／久我
剛「雑詠俳句」／香山爽子「俳句」／笠居誠一「俳句」／大田井春峰「雑詠」／久我剛「俳句」／辻長
風「新春」／勉〔短評〕／喜田正秋〔俳句〕／辻長風〔俳句〕／藤田薫水「青松俳句」／＊「田中先生
昭和十二年御来島の砌の御挨拶の一節」／上野青翠「青松俳句」／藤田薫水「俳句」／浅野繁「子供の
四季」／＊〔田中、三浦宛て児童書翰〕／＊「青松第拾五号短歌合評」／＊「青松第十五卷俳句合評」
／誠一「歳末弁（蕪村全集）」／＊「速報 12.23」／＊「内規 1945.12.23」／勉「あとがき」1.9

『青松』拾七号、長田穂波追悼号、昭和二十一年一月発行：「巻頭言」／「長田穂波氏をいたむ」小見
山和夫／「故長田教兄を憶ふ」 笠居誠一／「新日本建設と青松園」長田穂波／＊「わが大空（著書、穂
波実相より）」／「笛」三木康平／「長田大兄追悼詩作品、七篇」五氏／「長田大兄追悼短歌作品」十氏
／「長田大兄追悼俳句作品」八氏／「偉人「長田穂波」（園長）野島泰治／「臨終前後」（医官）林文雄
／「追悼感話」（総代）石木俊一／「路傍の説教」大原枝風／「長田さんの思出一つ一つ」上野青翠／＊
「童謡「蟹」（雲なき空より）」／＊「大波小波（雲なき空より）」／「経過報告」／「故長田大人を語る
座談会」／「弔辞（協和会葬に於ける）」／「弔辞（霊交会より）」／「骸が語る（霊魂は羽ばたくより）」
誠一／「霊魂は羽ばたく序文」賀川豊彦／「作業状況」／「あとがき」／「長田さんと子供」小見山和
夫／「子供たちに与ふる詩」浅野繁／「綴方」児童／「学園記」浅の繁

＝〔穂波遺影〕／「昭和二十年九月第三主日／へブル書第九章の感話」／「我等の祭司」／霊交会小羊

／ほなみ」〔穂波手書き原稿後欠〕／＊「目次」／〔穂波肖像写真 背景にクリスマスツリー〕／勉「巻頭言」／長田穂波「新日本建設と青松園」、長田穂波「ラザロ死ねり」清記多田勇／園長野島泰治「偉人「長田穂波」」清記岩瀬弘美／＊「わが大空（穂波実相より）」／医官林文雄「臨終前後」1946.1.14 記／石本俊市「追悼感話」／小見山和夫「長田穂波氏をいたむ」12.29／笠居誠一「故長田教兄を憶ふ」1.19 夜記／大原枝風「路傍の説教」／上野青翠「長田さんの思ひ出一ツツ」／三木康平「笛」／土谷勉「故長田大人を語る座談会／於会議室昭和二十年十二月二十三日十三時より」／＊「長田大兄追悼詩作品序／七篇」／岩瀬弘美「長田大兄を偲ぶ詩」／芥木生「故長田大兄追悼詩ノ一／伽の夜」1945.12.18 夜作／芥木生「故長田大兄追悼詩ノ二／暗中摸索」／芥木生「続、伽の夜」1945.12.18 更／浅野繁「謹しみて長田大兄の御霊に捧ぐ」／＊「一月下旬作業状況」／松田美津夫「詩／“紅梅一輪”」、美津夫「“昇天三日後”」／久我剛「詩 聖者の昇天」／＊「長田大兄追悼短歌作品序」／笠居誠一「短歌」／久我剛「短歌 長田大兄へ」／岩瀬弘美「短歌／長田さんを偲ぶ」／浅山稔「傷心」／芥木操「長田大兄を悼む歌」／赤沢正美「追悼歌」／泉俊夫「短歌 故長田大兄に捧ぐ」／綾井讓「噫長田大兄の霊に捧ぐ」／浅野繁「長田大兄を悼む」／＊「靈魂は羽ばたく（穂波著、昭和三年出版、光友社）／賀川豊彦氏の序文の一節」／小見山和夫「短歌／長田穂波氏をいたみつゝ」／＊「長田大兄追悼俳句」／香山爽子「俳句／長田大兄急逝を悼む」／熊野梅香「俳句／故長田大兄を偲びて」／藤田薫水〔俳句〕／辻長風〔俳句〕／喜田正秋「追悼句」／大原枝風「俳句 夜警」／多田勇「長田氏追悼句」／大田井春峰「故長田穂波氏追悼句」／＊「長田さんと子供の頁」／小見山和夫「長田さんと子供」／浅野繁「子供たちに与ふる詩」／初四須内喜代香「長田先生」／高二岡崎安彦「長田先生」／高二赤松清子「長田先生」／＊「蟹（童謡）雲なき空より」／高二山上広光「長田先生」／初六畠山亮「長田先生」／高一山口忠夫「長田先生」／初五中井八千代「長田先生」／浅野繁「学園記（一回）」／＊「大波小波（童謡）雲なき空より」／＊「経過報告」／総代石本俊市、代理今井比沙志「弔辞」1945.12.19／大島キリスト教霊交会林友吉「弔詞」1945.12.19／誠一「骸が語る（靈魂は羽ばたく）より」／＊「青松別冊／起上る高松 林文雄／米兵の見た愛樂園 内田守人寄稿」／勉「あとがき」

『青松』第十八巻、一月号、昭和二十一年一月発行：「光明皇后御写真」／「皇太后宮恩歌（謹写）」／「御仁慈調」／「巻頭言」／「光明皇后」土谷勉／「御歌を拝読して謹み奉る」笠居誠一、芥木操、小見山和夫、綾井讓、赤沢正美、浅野繁／「御歌を拝しまつりて」小見山和夫／「年頭感」（総代）石本俊

市／「新年短歌会詠草」短歌会同人／「新年句会詠草」俳句会同人／「初手術（俳句）」林東風／「大島の人々に捧ぐ（短歌）」徳島医専東武夫／「御礼と私の要望」（議長）熊野源一／「雪二題（随想）」小見山和夫／「詩壇」斉木操、久我剛、笠居誠一、松田美津夫、上野青翠／「歌壇」小見山和夫、赤沢正美、泉俊夫、浅山稔、綾井譲、斉木操、笠居誠一／「俳壇」爽子、枝風、勇、潮、青翠、剛、薫水／「初句会」評」林東風先生／「創作「干柿」」岩瀬弘美／「新年短歌会合評」浅野、小宮山、笠居、綾井、斉木、泉／「創作「学園記」その二」浅野繁／「創作「恩師宮内先生」」岸野ゆき／「俳句の評」林先生／「犀星詩集より（明日）」／「作業状況」／「あとがき」

=〔星塚兄姉宛て林文雄書簡〕3.20／＊〔廻覧表〕／＊「光明皇后御姿／皇太后宮御歌」／＊「御仁慈調」／繁「巻頭言」／＊「青松第十八号目次」／＊「東風だより」／土谷勉「光明皇后」1946.1.20／＊「御歌を拝読して謹み奉る」／勉〔奈良の大仏〕／小見山和夫「御歌を拝しまつりて」11.21 記／＊〔聖武天皇〕／石本俊市「年頭感」／誠一記「新年短歌会詠草」／＊〔新年句会〕／林東風「初手術／栗林動物園」／徳島医専東武夫「大島の人々に捧ぐ」／＊「正岡子規歌集より」／熊野「御礼と私の要望」／小見山和夫「随想／雪二題」／＊「詩壇目次」／久我剛「詩 新年」／斉木操「自由詩／敗帰兵」／笠居誠一「詩試作三つ」／松田美津夫「詩／“路は一筋”」／上野青翠「童謡」／＊「生田春月「真実に生きる悩み」から」／＊「歌壇目次」／小見山和夫「塩をうたふ」／赤沢正美「青松詠草」／泉俊夫「青松短歌」／浅山稔「冬雑詠」／綾井譲「青松短歌」／＊「昭和二十年度馬鈴薯、南瓜、甘藷収穫高」／斉木操「短歌／復員の弟より」／笠居誠一「短歌」／＊「青松俳壇目次」／香山爽子「青松雑詠」／大原枝風「青松雑詠句」／喜田正秋「青松俳句」／多田勇「青松俳句」／城市潮「俳句」／上野青翠「青松俳句」／久我剛「俳句雑詠」／藤田薫水「俳句」／林東風先生選「第老回青松題詠「初句会」評」／生田春月「今日」／浅野、小見山、笠居、綾井、斉木、泉「新年短歌会合評」／=石〔=は火へんに介〕「雑詠」／岩瀬弘美「干柿」／＊「明日／室生犀星詩集より」／浅野繁「学園記 その二」／岸野ゆき「恩師宮内先生」／＊「作業状況」／浅野繁「あとがき」

『青松』〔第19巻〕二月、〔1946年〕〔表紙に「二〇年／一九巻」と赤鉛筆書き〕：「巻頭言」／「敗戦の紀元節に」林文雄／「思郷忘郷（闘牛）一」小見山和夫／「紀元節 随筆」笠居誠一／「俳句を作れ 感想」香山爽子／「短歌欄」／「如月」小見山和夫／「雑詠」笠居誠一／「傷を病む」斉木操／「頭つなき声」赤沢正美／「交換場点描」朝山稔／「雑詠」加藤信勝／「暗に求む」浅野繁／「俳句欄」／「雑

詠」喜田正秋／「雑詠」大原枝風／「雑詠」香山爽子／「雑詠」多田勇／「雑詠」城市潮／「雑詠」辻長風／「雑詠」藤田薫水／「傷持つ者」斉木操／「雑詠」久我剛／「雑詠」上野青翠／「雑詠」飯塚巧／「詩欄」／「空の雨」松田美津夫／「屋島」久我剛／「柵」上野青翠／「私のノート 随筆」小見山和夫／「青松を読み 感想」多田勇／「短歌合評」青松短歌会同人／「俳句合評」青松俳句会同人／「嬰兒の瞳 コント」斉木操／「学園記 創作」浅野繁／「あとがき」

＝＊「巻頭言」／＊「青松第十九号目次」／林文雄「敗惨の紀元節に」／小見山和夫「思郷忘郷（一）」

3.3 記／笠居誠一「随筆「紀元節」」2.11 夜記／香山爽子「俳句を作れ」1945.2.19 記／＊「歌壇目次」／小見山和夫「如月」／笠居誠一「短歌詠草」／斉木操「短歌／傷を病む」／赤沢正美「詠草」／浅山稔「雑詠」／加藤信勝「短歌」／浅野繁「暗に求む」／＊「俳壇目次」／喜田正秋「俳句」／大原枝風「青松俳句雑詠」／香山爽子「雑詠」／多田勇「青松俳句」／城市潮「俳句」／辻長風「青松俳句」／藤田薫水「俳句」／斉木操「俳句／傷持の春」／久我剛「青松俳句」／上野青翠「青松俳句」／飯塚功「青松俳句」／松田美津夫「詩」／久我剛「詩／屋島」／上野青翠「詩」／小見山和夫「私のノート」／多田勇「青松を読み」／笠居、浅野、綾井、小見山、赤沢、斉木、泉、浅山「青松短歌合評」／＊「第拾六号青松俳句合評」／斉木操「コント／嬰兒の瞳」1946.2.28 記／浅野繁「学園記（三）」1946.2.20／＊「東風たより」／繁「あとがき」／「廻順」

『青松』第二十巻、三月号、協和会創立第十五周年記念特輯号、＊：「巻頭言」／「協和会創立第十五周年記念日に当りて」総代石本俊市／「思ひ出の記」笠居誠一／「知らなかつた協和会」斉木操／「仲間（なかま）」小見山和夫／「祝賀短歌」青松短歌会同人／「祝賀俳句」青松俳句会同人／「記念懸賞文芸入選作品発表」／「短歌 題海」笠居誠一選／「短歌 題海」小見山和夫選／「俳句 題春の空」林東風選／「俳句 題春の山」喜田正秋選／「星塚新春祝賀文芸入選作品（転載）」／「短歌 伊藤道子選」／「俳句 塩沼琉球男選」／「詩壇」／「穂波追悼」林東風／「光りを仰ぎて（外一篇）」笠居誠一／「太陽」久我剛／「血清（外一篇）」上野青翠／「協和の樹かげに（外一篇）」松田美津夫／「短歌作品集」青松短歌会同人／「俳句作品集」青松俳句会同人／「新人を望む一要素」赤沢正美／「短歌合評／俳句合評（批評欄）」青松短歌俳句会同人／「余滴／朝日新聞掲載小島の春は明るし／協和会拾五周年記念演芸／褒賞室、皆勤精勤者／統計／総売上高／笑話（土谷勉）／闇市場相場表／音信、三浦幾次、伊藤利根太郎」／「旅の一齣」土谷勉／「思郷忘郷（二）（随筆）」小見山和夫／「創作」／「梅」土谷勉／「境

界線」土谷勉／「底知れぬ男」多田勇／「釣銭」土谷勉／「学園記」浅野繁／「赤土の園」土谷勉／「あ
とがき」

＝＊「巻頭言」／＊「青松（協和会創立第十五周年記念特輯号）目次」／石本俊市「協和会創立第拾
五周年記念日に当りて」1946.3.1 記／土谷勉〔川柳、短歌〕／＊「朝日新聞掲載 三月十一日／小島の
春は明るし」／笠居誠一「思ひ出の記」3.8／斉木操「知らなかつた協和会」／小見山和夫「仲間（なか
ま）／協和会創立拾五週年記念日に」1946.3.8 記／＊「協和会創立第拾五週年記念祝賀短歌」／＊「協
和会創立第十五週年記念俳句雑詠」／＊「協和会創立第十五週年記念懸賞俳句短歌」／浅野繁「協和会
十五周年記念〔短歌〕」／＊〔協和会創立 15 周年記念寄稿〕／星塚文学研究会俳句部長中村安朗「星塚
文芸 短歌と俳句」1946.2.13／＊〔褒賞室、作業皆勤および精勤者〕／阪大医二年伊藤利根太郎「見直
した人生」／林東風「穂波追悼」2.18 夜／笠居誠一「詩」／久我剛「詩 太陽」／上野青翠「詩／血清
／松田美津夫「詩」／上野青翠「詩／平和の鐘」／小見山和夫「短歌作品」／笠居誠一「短歌」／綾井
譲〔短歌〕／斉木操「短歌／身辺雑抄」／赤沢正美「青松詠草」／泉俊夫〔短歌〕／加藤信勝「短歌」
／浅野繁「雪夜」／赤沢正美「新人を望む一要素」／＊「二十年度一ケ年統計」／小見山、綾井、笠居、
斉木、赤沢、泉「青松短歌合評」／香山爽子「青松雑詠」／大原枝風「青松雑詠」／喜田正秋「青松俳
句」／多田勇「青松俳句」／久我剛「俳句雑詠」／上野青翠「青松俳句」／飯塚功「青松俳句」／松田
美津夫「俳句」／剛、青翠、枝風、勇、薫水、爽子「俳句合評」／枝風、青翠、薫水、勇、剛、爽子「俳
句合評」／＊「総売上高」／土谷勉「梅」／土谷勉「境界線」／＊〔随想〕／土谷勉「釣銭」／＊〔随
想〕／＊〔随想〕／＊〔協和会通知〕／土谷勉「旅の一齣」／＊「笑話」／＊「私は私の見た闇相場の
値段を記すことにした（自昭和二十一年二月二十五日至昭和二十一年三月一日）」／＊「栗林公園」／小
見山和夫「思郷忘郷（二）」／多田勇「底知れぬ男」／浅野繁「学園記（四）」／土谷勉「赤土の園」／
穂波「この火燃えたらむには」／霊交会代表石本俊市「霊交会通信」1946.4.3／＊「東風たより」／繁「あ
とがき」

『青松』第廿一卷、四月号、春季特輯号、＊：「巻頭言」／「つつじ花園」園長野島泰治／「予言者の
叫」技官林文雄／「東風放言」／「眼球銀行（EYE BANKU）」高橋竹代／「穂波追悼を讀みて」／「自
由主義は真理か」土谷勉／「遺家族の結婚問題について」斉木操／「平和建設と野球」山本福一／「民
主々義の医学者故小林博士」上野青翠／「あいさつ」笠居誠一／「キリストの復活（内村鑑三の随筆）」

／「中国雑感(水)」青山信彦／「豌 (pea) 菽 (bean)」華催香一／「思郷忘郷(四)」小見山和夫／「小早川隆景と郷土」大原枝風／「肖像画」中村昭子／「過去一年に印象深かったこと」看護婦／「沖縄宮古南静園の消息」／「投票場風景」青松特派員 DDT 生／〔 〕／「職員俳句」岩崎緑雨、岩田蓼子／「詩作品」「短歌作品」／「作歌メモ」「名歌鑑賞」／「青松短歌合評」／「俳句作品」／「青松俳句合評」／「時局こぼれ譚(一)」土谷勉／「子供と家庭(春の巻)」多田勇／「青い鳥」上野青翠／「薯の饒舌」岩瀬弘美／「時局こぼれ譚(二)」土谷勉／「学園記(五)」綾井讓／「春宵の集ひ」／「あとがき」

＝勉「巻頭言」／「青松第廿一卷目次」／野島泰治「つゝじ花園」／技官林文雄「予言者の叫」／「東風放言」／*「東風放言」／高橋竹代「眼球銀行(EYE.BANK)」／*「東風放言2」／三豊奨健寮「穂波追悼」をよみて／*「詩 舞ふ 室生犀星」／土谷勉「自由主義は真理か」／斉木操「小論／遺家族の結婚問題について」／山本福一「平和建設と野球」／上野青翠「感想／“民主々義の医学者故小林博士”」／笠居誠一「あいさつ」／笠居誠一「キリストの復活(内村鑑三筆)」／青山信彦「中国雑感(水)」／華催香一「豌 (pea) 菽 (bean)」／小見山和夫「思郷忘郷(四)」／枝風「小早川隆景と郷土」／見習一年中村昭子「藤川看護婦肖像」／看護婦 F 子、看護婦 K 子「過去一年に印象深かったこと(二年生)」／看護婦見習 M 子「薬局の一日(一年生)」／「沖縄宮古南静園の消息／(帰還せる婦長談)」／青松特派員 D.D.T 生「近況速報第一報／投票場風景」／〔林宛て書簡〕4.25／〔土谷勉宛て書簡〕4.4／南幸男「宮古南静園の近況」／岩崎緑雲「鶯」／岩田蓼子「うつり来て数日」／久我剛「詩／青葉の山」／松田美津夫「詩／老松」／上野春代「詩／夕べの教会」／上野春代「詩／“園長先生”」／大石春雄「詩 神聖なる労働」／松田美津夫「詩／“雨が降る”」／松田美津夫「詩／“天のなす処”」／小見山和夫「短歌作品／遺骨」／*「雑詠」／笠居誠一「短歌」／綾井讓〔短歌〕／泉俊夫「青松詠草短歌」／浅野繁「雛祭」／和夫「作歌メモ」／村野次郎「名歌鑑賞」／笠居、小見山、赤沢、斉木「前月号短歌合評」／大原枝風「青松俳句雑詠」／香山爽子「青松雑詠」／喜田正秋「青松俳句雑詠」／多田杏子(勇改メ)「青松俳句」／久我剛「雑詠俳句」／上野青翠「青松俳句」／飯塚功「青松俳句」／藤田薫水「俳句雑詠」／山吹里美「俳句雑詠」／剛、青翠、功、勇、薫水、爽子「青松俳句合評」／土谷勉「時局こぼれ譚(一)」／多田勇「子供と家庭／春の巻(其の一)」4.8 記／多田勇「春の巻(其二)」17 記／上野青翠「青い鳥」4.17／岩瀬弘美「薯の饒舌」1946.4.20 記／土谷勉「時局こぼれ譚(二)」／浅野繁「学園記」

(五) 1946.4.20 脱稿／綾井「春宵の集ひ」 4.17／「東風たより」

『**青松**』第23号、六月号、母の日特輯号、昭和二十一年六月発行：「巻頭言」／「桑原氏の論文を読んで」林文雄／「デモクラシーとは何ぞや」林文雄訳／「形なき十字架を求めて（寄稿）」木村武彦／「家も親もない避難者同士の結婚」笠居土龍訳／「母の日」特輯号原稿／「おかあさんの手」初二久米哲雄／「ルイズの話」／「私の母」K子、N子／「母さん 詩」NA子／「私の母」T子／「母の日（俳句）」東風／「雨の夜（遺稿）」長田穂波／「私の母」MM子、OC子／「私の母」木村猛外／「思郷望郷（五）」小見山和夫／「母の歌」小見山和夫／「母を思ふ歌」青松短歌会同人／「母の日に因みて」青松俳句会同人／「母に捧ぐる詩」大石春雄／「母のことども」綾井讓／「母」香山爽子／「母の面会」上野青翠／「母」竹内晃／「肖像画」中村昭子／「ローズデー作品批評」東風／「名句鑑賞」俳句会同人／「職員同人作品欄」／「職員俳句会報」岩崎緑雲／「蛙 俳句」岩崎緑雲／「大阪城残石」岩田蓼子／「青松詩壇」／「未踏への思慕（寄稿）」今川栄一／「トマト」笠居土龍／「盲人」大石春雄／「お面会」久我剛／「青松歌壇」／「麦窓漫評」内田守人／「青松短歌一首評」／「俳句合評」／「ラジオ文芸発表」／「眼球一千百哩の旅行 時局こぼれ譚」土谷勉／「火難の相」斉木操／「学園記八」浅野繁／「あとがき」

＝勉「巻頭言」／*「青松母の日特輯号目次二十三巻」／林東風「美しき朝に」／林文雄「桑原氏の論文を読んで」／*「長田穂波遺稿／詩だからとて」／*「デモクラシーとは何ぞや」／「病友へ／形なき十字架を求めて」1946.6.8／土龍〔印〕「家も親も無い避難者同士の結婚（訳）」／職員一同人「母の日」／小見山和夫「“万葉図録”を読みつつ」／分教場初二年久米哲雄「おかあさんの手」／林文雄「ルイズの話」／看校二年K子「私の母」／看校一年N子「私の母」／看校二年NA子「母さん」／T子「私の母」／長田穂波「雨の夜 遺稿」／MM子「私の母」／看校OC子「私の母」／F子「私の母」／〔切抜 芹沢光治良〔女性に贈る言葉／子供をあまやかす母〕／〔私の母〕／小見山和夫「思郷望郷（五）」／*「芸術と生活 有島武郎」／小見山和夫「母の歌」／*「母を思ふ歌」／*「母の日に因みて」／大石春雄「母に捧ぐ詩」／綾井讓「母のことども」／香山爽子「母」／爽子「俳句」／上野青翠「母の面会」／竹内晃「母」／中村昭子「岡田看護婦の像」／東風「薔薇句評」／土谷勉「虚子選句集（名句鑑賞）」／「東風たより」／*「進駐軍漫画から」／*〔武蔵野音楽学校音楽団乗車電車〕／〔土谷勉宛て書簡〕5.13／〔林文雄宛て書簡〕6.8／〔林宛て書簡〕6.8／塚田喜太郎「愛する病友諸兄姉」／「職員同

人作品」／岩崎緑雲「職員俳句会報」／岩崎緑雲「蛙」／岩田蓼子「大阪城残石」／「青松詩壇」／今川栄一「未踏への思慕」／笠居土龍〔印〕「トマト」 6.2／大石春雄「詩／“盲人”」／久我剛「童謡詩／お面会」／「青松歌壇 目次」／小見山和夫「たなか／花二題」／岡山伊原加代「高原の五月」／綾井讓「短歌」／泉俊夫「短歌」／笠居誠一「短歌」／赤沢正美「青松詠草」／斉木操「短歌／病床の初夏」／加藤信勝「短歌」／岩瀬弘美「短歌」／浅山稔「詠草」／椋本敏夫「青松詠草」／浅野繁「青松詠草／青と白」／内田守人「麦窓漫評」／*「青松短歌一首評」／「青松俳壇目次」／喜田正秋「青松俳句」／香山爽子「雑詠」／多田杏子「青松俳句」／藤田薫水「青松俳句 雑詠」／山吹里美「雑詠」／山口綾女「青松俳句」／辻長風「青松俳句」／久我剛「雑詠俳句」／松井登、中村浩一、椋本敏夫、村上重人、角地敏、為無凡平「青松俳句」／岡崎光年「青松俳句雑詠」／正秋、枝風、爽子、薫水、剛、杏子、青翠、里美、巧「俳句合評」／「ラジオ文芸入選作品発表」／選者喜田正秋「ラジオ文芸俳句「柿の花」」／小見山和夫選「懸賞短歌／あやめ」／*「佳作」／*「秀逸」／選者岩崎緑雲「懸賞俳句／杜若」／笠居誠一選「ラジオ文芸／短歌馬鈴薯」／土谷勉「時局こぼれ譚／眼球一千百哩の旅行」／斉木操「病床短篇／火難の相」／浅野繁「学園記 八」 1946. 6. 10／繁「あとがき」

『青松』第廿四巻、七月号、昭和二十一年七月二十日発行：「巻頭言」／「戦災一年・母の日に寄す」園長野島泰治／「忘れること」林東風／「明窓雑記（一四）」土谷勉／「思郷忘郷（六）」小見山和夫／「梅雨晴れ」綾井讓／「女木のおはらひ」上野青翠／「愚者の告白」大石春雄／「トルーマンの言葉、TOSCANINの帰国、アイルランド詣」東風訳／「自給自足と組合生活、しやうがないと shafa（スナフ）」土龍訳／「職員文芸壇」／「郷愁（俳句）」大島新之助／「習作俳句」林東風／「田中河内介父子墓（俳句）」岩田蓼子／「ジョンストン軍医少佐を迎へて」林東風／「俳句」大島水仙／「わが夢を思ひ出でつつ（詩）」中村昭子／「東京の食生活」竹三郎／「消息一束」／「小説といふもの」佐藤信衛／「素張しきかな人生」アントン、チェホフ／「空白」宮本百合子／「グデュレバーチフの置土産」ソ聯作家／「力量と品性」／「条件は」塚田喜太郎／「何が一番大切か」江口／「米国と米国人」パール・バック／「真の自由主義は」ゲーテ／「〇〇室員へ」穂波遺稿／「青松文芸壇」／「詩壇」／「希望」大石春雄／「幸福」久我剛／「名歌鑑賞」綾井讓、笠居誠一／「歌壇」青松短歌会同人／「河鹿」多田杏子／「俳壇」邱山俳句会同人／「おばあさん」林東風／「納涼らくがき」小見山和夫／「陛下のお言葉（時局こぼれ譚）」土谷勉／「百坪百姓」岩瀬弘美／「学園記（九）」浅野繁／「ラジオ文芸、俳句、香山爽子選、短

歌、芥木操選」／「あとがき」／「挿絵」荒井富三、中村昭子

＝〔俳句絵 河童〕／〔スケッチ〕／中村昭子「池田婦長殿」／繁「巻頭言」／*「青松目次第廿四卷」
／野島泰治「戦災一年」／野島泰治「母の日」に寄す／林東風「忘れること」7.10 記／土谷勉「明窓
雑記（一四）」／*「小説といふもの（佐藤信衛）」／小見山和夫「思郷忘郷（六）」／*「素晴しきかな
人生（アントン・チェホフ）」／綾井譲「梅雨霽れ」7.10／上野青翠「女木のおはらひ」7.11 記／大石春
雄「病窓雑感「愚者の告白」」／*「空白（宮本百合子「歌声よ、おこれ」）」／*「ソ聯作家クデュレバ
ーチフ氏の置土産」／*「大島海外通信（七月二十六日）」／*「トルーマンの言葉」／*「青松海外グ
ラフ／トルーマンの色々／慎重な運転」／*「Toscanini の帰国（トスカニーニ）」／*「アイルランド
薯（Irish Potato）」／土龍〔印〕「自給自足と組合生活／奈良県下で見出された珍しい村（六月十八日
英文毎日）」／土龍〔印〕「“しやうがない”と‘Snafu’（六月十八日英文毎日）」／大島新之助「郷愁／
ビルマ国ランゲーン市コカイン、キャンプにて」1946.6.21／林東風「習作俳句」／岩田蓼子「田中河内
介父子墓」／林東風「ジョンストン軍医少佐を迎へて」／大島水仙〔俳句〕／中村昭子「詩／わが夢を
思ひ出でつつ」／*「力量と品性」／竹三郎「東京の食生活」七月一日／*「園況（七月一日調）」／*
〔愛生園入園者から土谷勉宛て葉書〕／*〔文化新聞社から土谷勉宛て葉書〕／*〔葉書3枚〕／*「青
松寸評」／*〔土谷勉宛て書簡〕／*「裁判所はあちら」1946.7.21／故長田穂波遺稿「〇〇室員へ」／
大石春雄「希望」／久我剛「詩／幸福」／綾井譲「名歌鑑賞」／笠居誠一「短歌鑑賞」／小見山和夫「“万
葉図録”を読みつつ」／笠居誠一「短歌詠草」／泉俊夫「短歌 兄の面会ほか」／赤沢正美「青松詠草」
／綾井譲「戦災一週年の高松を思ふ」／椋本敏夫〔短歌〕／芥木操「七月詠草」／加藤信勝「短歌」／
浅山稔「雑詠」／瀧川渉「青松短歌」／浅野繁「潮あみ」／ツカダキタロー「条件は」／多田杏子「河
鹿」／喜田正秋「俳句雑詠」／香山爽子「雑詠」／大原枝風「青松俳句」／岡崎光年「青松俳句雑詠」
／多田杏子「青松俳句」／藤田薫水「青松俳句」／山吹里美「青松俳句」／岸野雪女「青松俳句」／上
野青翠「青松俳句」／辻長風〔俳句〕／飯塚功〔俳句〕／江口栄治郎「何が一番大切か」〔塚田喜太郎宛
て葉書〕／久我剛「青松俳句」／林東風「おばあさん」7.10／*「ユーモア」／小見山和夫「納涼らく
がき」／土谷勉「時局こぼれ譚（七回）」／岩瀬弘美「ショート文芸 百坪百姓」／*「米国と米国人（パ
ールバック夫人筆）」／浅野繁「学園記（9）」1946.7.10／*「真の自由主義者は」／選者香山爽子「ラ
ヂオ文芸俳句／兼題“百合”」1946.7.3 記／芥木操選「ラヂオ文芸／短歌「水泳」」／編輯者繁「あとが

き」／〔ジエー、エム、ジョンストンから野島泰治宛て書翰〕1946.7.22／勉「井上謙氏のお便り」／勉
「廻覧順」

『**青松**』**第二五巻、八月号**、昭和二十一年八月二十五日発行：「巻頭言」／「新興日本の祖先」林文雄
／「八月十五日のこと」林文雄／「思郷忘郷（七）」小見山和夫／「八月十二日の日誌の一部」宮崎千代
子／「御願ひ」宮崎千代子／「サソリ」宮崎千代子／「青松の記」篠原享子／「見学を終へて」岡内静
子／「青き島」泰正／「暑くなつて思ひ出すこと」野島浩／「夏になると思ひ出すこと」N子／「職員
俳壇」岩崎緑雲、林東風／「悲しき思ひ出」潮満／「お留守番の思ひ出」O.T.／「肖像画」中村昭子／「短
歌 長島訪問」井上謙／「青松園の皆様へ」萩の花有志／「青松春季特輯号感想」瀬田洋／「慰問演芸断
想」赤沢正美、大原枝風、泉俊夫、香山爽子／「慰問演芸に題し「俳句」」久我剛、多田杏子／「中元慰
安／短歌／俳句／ものは付」／「ラジオ文芸 俳句」／「詩壇」／「青松短歌壇」／「青松俳句壇」／「俳
句一句合評」／「英文毎日より」笠井土龍／「休戦の回顧」瀧川涉／「深海魚」小見山和夫／「明窓雑
記」土谷勉／「学園記（十）」浅野繁／「ビルマ点描」竹村政行／「あとがき」

＝＊〔暑中見舞い色紙〕／勉「巻頭言」／＊「青松目次第二十五巻」／技官林文雄「新興日本の祖先」
／官舎林文雄「八月十五日のこと（20年）」／＊〔東風宛て書簡〕／小見山和夫「思郷忘郷（七）」／香
川師範学校女子部宮崎千代子「八月十二日の日誌の一部」／宮崎千代子「御願ひ」／宮崎千代子「サソ
リ」／賀川師範学校女子部篠原享子「青松の記」1946.8.12 記／香川師範学校女子部岡内静子「見学を終
へて」1946.8.12／香川師範学校女子部泰正「青き島」1946.8.12／野島浩「暑くなつて思ひ出す事」／N
子「夏になると思ひ出すこと」／岩崎緑雲「蝉時雨」／林東風「青松俳句」／〔俳句絵〕／潮満「悲し
き思出」／A.Nakamura〔肖像画〕／井上謙「短歌 長島訪問（八月十八日）抜粋」／愛生園萩之花有志
より「青松園の皆様へ」／＊〔星塚麦笛句会から林東風先生、邱山俳句会宛て葉書〕／光明園瀬田洋「青
松春季特輯号拜見」8.6／赤沢正美「慰問演芸断想」／大原枝風「病者慰安職員芸能大会拜見記」／泉俊
夫「八月十二日の夕」／香山爽子「慰安演芸の夕」／久我剛「慰安演劇に題す」／多田杏子「慰安の夕
に贈る」／小見山和夫選「中元慰安懸賞短歌」／＊「中元懸賞俳句」／選者青山信彦「中元余興ものは
付／意外なものは」／選者大原枝風「懸賞俳句「灯籠」」／「詩壇之部」／久我剛「詩 雲と郷愁」／大
石春雄「緑の小松」／大石春雄「詩 夜」／「短歌壇之部」／浅野繁「青松短歌」／笠居誠一「短歌雑詠」
／綾井讓「短歌」／斉木操「秋立の頃」／泉俊夫「青松短歌」／浅山稔「雑詠」／赤沢正美「青松短歌

詠草」／大田井敏夫「青松短歌」／「俳檀之部」／喜田正秋「青松俳句」／藤田薫水「青松俳句雑詠」
／岡崎光年「青松俳句」／大原枝風「青松俳句雑詠」／久我剛「青松俳句」／熊野梅香「石本兄一行愛
生、光明両園視察の門出に当り浮びし儘に」／山吹里美「青松俳句雑詠」／上野青翠「青松俳句雑詠」
／東光男「青松俳句雑詠」／飯塚路草「青松俳句雑詠」／辻長風「青松俳句」／香山爽子「雑詠」／多
田杏子「青松俳句」／枝風「青松合評会」／「富山、髭、髯、或は一般ひげ剃に対する課税を考慮す（八
月十一日英文毎日）／＊〔暑中見舞い葉書〕／＊「空中高く（八月四日英文毎日）」／瀧川涉「休戦の回
顧」／和夫〔西岡春重歌集紹介〕 8.20／土谷勉「明窓雑記（二四）」／あさの、しげる「学園記（10）」
／竹村政行「ビルマ点描（一）」／編輯員杏子、爽子「あとがき」／土谷「廻覧順」

『**青松**』4 4 巻、昭和二十三年九月発行：「巻頭言」／「創作／大正琴」大津俊三／「創作／らん子」
中石としお／「創作／邂逅」吉井直人／「創作／桜咲く頃」吉野稔／「創作／宵待草」井上和子／「浄
土の風光（其ノ一）」南畝居士／「青松園の皆様へ」南畝居士／「エッキス」淳／「祖国へ 詩」淳／「守
屋先生の復員をお祝ひして」大島新之助／「ある試作として」瑞々子／「職員句会報」桃村／「詩 瀬戸
内海三療養所素描」河野進／「短歌作品」／「俳句作品」／「ラジオ文芸」／「あとがき」

＝＊「秋蝶」／＊「青松第四四巻目次」／大津俊三「大正琴」1948.6.16／中石としお「らん子」1948.6.29
／吉井直人「邂逅」／吉野稔「青松／桜咲く頃」／井上和子「小説 宵待草」／小倉、南畝居士「浄土の
風光（其の一）」8.28／小倉、南畝居士「青松園の皆様へ」／淳「エツキス（続）」8.19／大島新之助「守
屋先生の復員をお祝ひして」1948.9.2 夜／河野進「瀬戸内海三療養所素描」／＊〔フォースタ作品抜粋〕
／＊「ビルマの思ひ出の詩集より／祖国へ」／＊「短歌作品」／瑞々子「ある試作として」1948.8.18／
桃村「第拾回職員句会報」1948.9.2 夜／＊「第八回職員句会報」1948.8.17 夜／＊「俳檀抄」／大和常磐
選「中元ものは附／『怖いものは』」／＊「ものは附／ほしいものは」／＊〔ゲーテ作品抜粋〕／小部進
「中元川柳『うちわ』」／赤沢正美「選を終えて」／へんしゅう、みのる、なおと、としお「あとがき」

キリスト教霊交会図書室所蔵 『大島霊交会週報 霊交 復刊』 目録 (石居)

| タイトル | 編著者 | 発行者 | 発行所 | 発行年月日 | 点数 | 備考 |
|---------------------|-----|-----|-----|----------|----|-----------------------|
| 《霊交 1号～35号》 | | | | | | |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 1 | * | * | * | 48.7.15 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 2 | * | * | * | 48.7.22 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 3 | * | * | * | 48.7.29 | 4 | B4片面印刷山折り。手書きによる訂正あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 4 | * | * | * | 48.8.5 | 4 | B4片面印刷山折り。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 5 | * | * | * | 48.8.12 | 4 | B4片面印刷山折り。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 6 | * | * | * | 48.8.19 | 4 | B4片面印刷山折り。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 7 | * | * | * | 48.8.26 | 4 | B4片面印刷山折り。手書きによる訂正あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 8 | * | * | * | 48.9.2 | 4 | B4片面印刷山折り。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 9 | * | * | * | 48.9.9 | 4 | B4片面印刷山折り。手書きによる訂正あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 10 | * | * | * | 48.9.16 | 5 | B4片面印刷山折り。手書きによる訂正あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 11 | * | * | * | 48.9.23 | 4 | B4片面印刷山折り。手書きによる訂正あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 12 | * | * | * | 48.9.30 | 4 | B4片面印刷山折り。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 13 | * | * | * | 48.10.7 | 4 | B4片面印刷山折り。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 14 | * | * | * | 48.10.14 | 4 | B4片面印刷山折り。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 15 | * | * | * | 48.10.21 | 4 | B4片面印刷山折り。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 16 | * | * | * | 48.10.28 | 4 | B4片面印刷山折り。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 17 | * | * | * | 48.11.4 | 4 | B4片面印刷山折り。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 18 | * | * | * | 48.11.11 | 4 | B4片面印刷山折り。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 19 | * | * | * | 48.11.18 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 20 | * | * | * | 48.11.25 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 21 | * | * | * | 48.12.2 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 22 | * | * | * | 48.12.9 | 4 | B5両面印刷。 |

| タイトル | 編著者 | 発行者 | 発行所 | 発行年月日 | 点数 | 備考 |
|---------------------|-----|-----|-----|----------|----|--------------------------|
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 23 | * | * | * | 48.12.16 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 24 | * | * | * | 48.12.23 | 10 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 25 | * | * | * | 48.12.30 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 26 | * | * | * | 49.1.6 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 27 | * | * | * | 49.1.13 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 28 | * | * | * | 49.1.20 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 29 | * | * | * | 49.1.27 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 30 | * | * | * | 49.2.3 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 31 | * | * | * | 49.2.10 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 32 | * | * | * | 49.2.17 | 3 | B5両面印刷。本号より「今週の礼拝当番」を表記。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 33 | * | * | * | 49.2.24 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 34 | * | * | * | 49.3.3 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 35 | * | * | * | 49.3.10 | 4 | B5両面印刷。 |
| 《霊交 第三六号～第四九号》 | | | | | | |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 36 | * | * | * | 49.3.17 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 37 | * | * | * | 49.3.24 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 38 | * | * | * | 49.3.31 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 39 | * | * | * | 49.4.7 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 40 | * | * | * | 49.4.14 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 41 | * | * | * | 49.4.21 | 4 | B5両面印刷。本号より題字の飾り変更。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 42 | * | * | * | 49.4.28 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 43 | * | * | * | 49.5.5 | 4 | B5両面印刷。本号より題字の飾り戻る。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 44 | * | * | * | 49.5.12 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 45 | * | * | * | 49.5.19 | 4 | B5両面印刷。 |

| タイトル | 編著者 | 発行者 | 発行所 | 発行年月日 | 点数 | 備考 |
|---------------------|-----|-----|-----|----------|----|--|
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 46 | * | * | * | 49.5.26 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 47 | * | * | * | 49.6.2 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 48 | * | * | * | 49.6.9 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 49 | * | * | * | 49.6.16 | 5 | B5両面印刷。 |
| 《霊交 第五〇号～第七〇号》 | | | | | | |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 50 | * | * | * | 49.6.23 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 51 | * | * | * | 49.6.30 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 52 | * | * | * | 49.7.7 | 4 | B5両面印刷。手書きによる訂正あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 53 | * | * | * | 49.7.14 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 54 | * | * | * | 49.7.21 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 55 | * | * | * | 49.7.28 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 56 | * | * | * | 49.8.4 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 57 | * | * | * | 49.8.11 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 58 | * | * | * | 49.8.18 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 59 | * | * | * | 49.8.25 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 60 | * | * | * | 49.9.1 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 61 | * | * | * | 49.9.8 | 4 | B5両面印刷。手書きによる訂正あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 62 | * | * | * | 49.9.15 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 63 | * | * | * | 49.9.22 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 64 | * | * | * | 49.9.29 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 65 | * | * | * | 49.10.6 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 66 | * | * | * | 49.10.13 | 4 | B5両面印刷。長田穂波『霊魂は羽ばたく』再版についての経過報告記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 67 | * | * | * | 49.10.20 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 68 | * | * | * | 49.10.27 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 69 | * | * | * | 49.11.3 | 4 | B5両面印刷。霊交会創立60周年記念礼拝についての役員会決議の報告記事あり。 |

| タイトル | 編著者 | 発行者 | 発行所 | 発行年月日 | 点数 | 備考 |
|--------------------|-----|-----|-----|----------|----|--------------------------------------|
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.70 | * | * | * | 49.11.10 | 4 | B5両面印刷。霊交会創立60周年記念礼拝の告知記事あり。 |
| 《霊交 第七号～第八号》 | | | | | | |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.71 | * | * | * | 49.11.17 | 4 | B5両面印刷。霊交会創立60周年記念礼拝の報告記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.72 | * | * | * | 49.11.24 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.73 | * | * | * | 49.12.1 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.74 | * | * | * | 49.12.8 | 4 | B5両面印刷。長田穂波『靈魂は羽ばたく』再版についての中間報告記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.75 | * | * | * | 49.12.15 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.76 | * | * | * | 49.12.22 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.77 | * | * | * | 49.12.29 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.78 | * | * | * | 50.1.5 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.79 | * | * | * | 50.1.12 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.80 | * | * | * | 50.1.19 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.81 | * | * | * | 50.1.26 | 4 | B5両面印刷。 |
| 《霊交 第八二号～第一二三号》 | | | | | | |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.82 | * | * | * | 50.2.2 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.83 | * | * | * | 50.2.9 | 4 | B5両面印刷。本号より題字の飾り・レイアウト変更。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.84 | * | * | * | 50.2.16 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.85 | * | * | * | 50.2.23 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.86 | * | * | * | 50.3.2 | 4 | B5両面印刷。長田穂波『靈魂は羽ばたく』再版についての報告記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.87 | * | * | * | 50.3.9 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.88 | * | * | * | 50.3.16 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.89 | * | * | * | 50.3.23 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.90 | * | * | * | 50.3.30 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.91 | * | * | * | 50.4.6 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.92 | * | * | * | 50.4.13 | 4 | B5両面印刷。 |

| タイトル | 編著者 | 発行者 | 発行所 | 発行年月日 | 点数 | 備考 |
|----------------------|-----|-----|-----|---------|----|---|
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 93 | * | * | * | 50.4.20 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 94 | * | * | * | 50.4.27 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 95 | * | * | * | 50.5.4 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 96 | * | * | * | 50.5.11 | 4 | B5両面印刷。長田穂波『霊魂は羽ばたく』再版決定の報告記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 97 | * | * | * | 50.5.18 | 4 | B5両面印刷。霊交会教会堂献堂40周年記念礼拝の告知記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 98 | * | * | * | 50.5.25 | 4 | B5両面印刷。霊交会教会堂会堂40周年記念礼拝の告知記事、長田穂波『霊魂は羽ばたく』再版についての記事、あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 99 | * | * | * | 50.6.1 | 4 | B5両面印刷。霊交会教会堂会堂40周年記念礼拝の報告記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 100 | * | * | * | 50.6.8 | 4 | B5両面印刷、ただし1点裏面白紙。長田穂波『霊魂は羽ばたく』再版出来の報告記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 101 | * | * | * | 50.6.15 | 1 | B5両面印刷。「聖画」受贈の報告記事、「ライを正しく理解する集い」の告知記事、あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 102 | * | * | * | 50.6.22 | 4 | B5両面印刷。『霊魂は羽ばたく』新聞書評の告知記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 103 | * | * | * | 50.6.29 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 104 | * | * | * | 50.7.6 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 105 | * | * | * | 50.7.13 | 4 | B5両面印刷。『霊魂は羽ばたく』頒布の告知記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 106 | * | * | * | 50.7.20 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 107 | * | * | * | 50.7.27 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 108 | * | * | * | 50.8.3 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 109 | * | * | * | 50.8.10 | 2 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 110 | * | * | * | 50.8.17 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 111 | * | * | * | 50.8.24 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 112 | * | * | * | 50.8.31 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 113 | * | * | * | 50.9.7 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 114 | * | * | * | 50.9.14 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 115 | * | * | * | 50.9.21 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 116 | * | * | * | 50.9.28 | 4 | B5両面印刷。 |

| タイトル | 編著者 | 発行者 | 発行所 | 発行年月日 | 点数 | 備考 |
|---------------------|-----|-----|-----|----------|----|---|
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.117 | * | * | * | 50.10.5 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.118 | * | * | * | 50.10.12 | 4 | B5両面印刷。『靈魂は羽ばたく』頒布状況の報告記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.119 | * | * | * | 50.10.19 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.120 | * | * | * | 50.10.26 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.121 | * | * | * | 50.11.2 | 4 | B5両面印刷。訂正あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.122 | * | * | * | 50.11.9 | 5 | B5両面印刷。霊交会創立61周年記念礼拝の告知記事、『靈魂は羽ばたく』在庫・頒布についての記事、あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.123 | * | * | * | 50.11.16 | 5 | B5両面印刷。 |
| 《霊交 124号～200号》 | | | | | | |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.124 | * | * | * | 50.11.23 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.125 | * | * | * | 50.11.30 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.126 | * | * | * | 50.12.7 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.127 | * | * | * | 50.12.14 | 5 | B6両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.128 | * | * | * | 50.12.21 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.129 | * | * | * | 50.12.28 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.130 | * | * | * | 51.1.4 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.131 | * | * | * | 51.1.11 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.132 | * | * | * | 51.1.18 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.133 | * | * | * | 51.1.25 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.134 | * | * | * | 51.2.1 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.135 | * | * | * | 51.2.8 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.136 | * | * | * | 51.2.15 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.137 | * | * | * | 51.2.22 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.138 | * | * | * | 51.2.29 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.139 | * | * | * | 51.3.7 | 5 | B5両面印刷。 |

| タイトル | 編著者 | 発行者 | 発行所 | 発行年月日 | 点数 | 備考 |
|---------------------|-----|-----|-----|---------|----|---------|
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.140 | * | * | * | 51.3.14 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.141 | * | * | * | 51.3.21 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.142 | * | * | * | 51.3.28 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.143 | * | * | * | 51.4.4 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.144 | * | * | * | 51.4.11 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.145 | * | * | * | 51.4.18 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.146 | * | * | * | 51.4.25 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.147 | * | * | * | 51.5.2 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.148 | * | * | * | 51.5.9 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.149 | * | * | * | 51.5.16 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.150 | * | * | * | 51.5.23 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.151 | * | * | * | 51.5.30 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.152 | * | * | * | 51.6.6 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.153 | * | * | * | 51.6.13 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.154 | * | * | * | 51.6.20 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.155 | * | * | * | 51.6.27 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.156 | * | * | * | 51.7.4 | 6 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.157 | * | * | * | 51.7.11 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.158 | * | * | * | 51.7.18 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.159 | * | * | * | 51.7.25 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.160 | * | * | * | 51.8.1 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.161 | * | * | * | 51.8.8 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.162 | * | * | * | 51.8.15 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.163 | * | * | * | 51.8.22 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.164 | * | * | * | 51.8.29 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.165 | * | * | * | 51.9.5 | 5 | B5両面印刷。 |

| タイトル | 編著者 | 発行者 | 発行所 | 発行年月日 | 点数 | 備考 |
|---------------------|-----|-----|-----|----------|----|-------------------------|
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.166 | * | * | * | 51.9.12 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.167 | * | * | * | 51.9.19 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.168 | * | * | * | 51.9.26 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.169 | * | * | * | 51.10.3 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.170 | * | * | * | 51.10.10 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.171 | * | * | * | 51.10.17 | 3 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.172 | * | * | * | 51.10.24 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.173 | * | * | * | 51.10.31 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.174 | * | * | * | 51.11.7 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.175 | * | * | * | 51.11.14 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.176 | * | * | * | 51.11.21 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.177 | * | * | * | 51.11.28 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.178 | * | * | * | 51.12.5 | 5 | B5両面印刷。医官高橋竹代退職の報告記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.179 | * | * | * | 51.12.12 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.180 | * | * | * | 51.12.19 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.181 | * | * | * | 51.12.26 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.182 | * | * | * | 52.1.2 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.183 | * | * | * | 52.1.9 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.184 | * | * | * | 52.1.16 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.185 | * | * | * | 52.1.23 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.186 | * | * | * | 52.1.30 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.187 | * | * | * | 52.2.6 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.188 | * | * | * | 52.2.13 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.189 | * | * | * | 52.2.20 | 5 | B5両面印刷。 |

| タイトル | 編著者 | 発行者 | 発行所 | 発行年月日 | 点数 | 備考 |
|---------------------|-----|-----|-----|---------|----|--------------|
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.190 | * | * | * | 52.2.27 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.191 | * | * | * | 52.3.6 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.192 | * | * | * | 52.3.13 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.193 | * | * | * | 52.3.20 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.194 | * | * | * | 52.3.27 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.195 | * | * | * | 52.4.3 | 5 | B5両面印刷。訂正あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.196 | * | * | * | 52.4.10 | 6 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.197 | * | * | * | 52.4.17 | 6 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.198 | * | * | * | 52.4.24 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.199 | * | * | * | 52.5.1 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.200 | * | * | * | 52.5.8 | 4 | B5両面印刷。 |
| 《霊交 201号~230号》 | | | | | | |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.201 | * | * | * | 52.5.15 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.202 | * | * | * | 52.5.22 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.203 | * | * | * | 52.5.29 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.204 | * | * | * | 52.6.5 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.205 | * | * | * | 52.6.12 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.206 | * | * | * | 52.6.19 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.207 | * | * | * | 52.6.26 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.208 | * | * | * | 52.7.3 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.209 | * | * | * | 52.7.10 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.210 | * | * | * | 52.7.17 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.211 | * | * | * | 52.7.24 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.212 | * | * | * | 52.7.31 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.213 | * | * | * | 52.8.7 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.214 | * | * | * | 52.8.14 | 5 | B5両面印刷。 |

| タイトル | 編著者 | 発行者 | 発行所 | 発行年月日 | 点数 | 備考 |
|----------------------|-----|-----|-----|----------|----|------------------------------|
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 215 | * | * | * | 52.8.21 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 216 | * | * | * | 52.8.28 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 217 | * | * | * | 52.9.4 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 218 | * | * | * | 52.9.11 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 219 | * | * | * | 52.9.18 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 220 | * | * | * | 52.9.25 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 221 | * | * | * | 52.10.2 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 222 | * | * | * | 52.10.9 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 223 | * | * | * | 52.10.16 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 224 | * | * | * | 52.10.23 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 225 | * | * | * | 52.10.30 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 226 | * | * | * | 52.11.6 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 227 | * | * | * | 52.11.13 | 5 | B5両面印刷。霊交会創立63周年記念礼拝の告知記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 228 | * | * | * | 52.11.20 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 229 | * | * | * | 52.11.27 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 230 | * | * | * | 52.12.4 | 5 | B5両面印刷。 |
| 《霊交 231号~260号》 | | | | | | |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 231 | * | * | * | 52.12.11 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 232 | * | * | * | 52.12.18 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 233 | * | * | * | 52.12.25 | 5 | B5両面印刷。手書きによる訂正あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 234 | * | * | * | 53.1.1 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 235 | * | * | * | 53.1.8 | 6 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 236 | * | * | * | 53.1.15 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 237 | * | * | * | 53.1.22 | 5 | B5両面印刷。 |

| タイトル | 編著者 | 発行者 | 発行所 | 発行年月日 | 点数 | 備考 |
|----------------------|-----|-----|-----|---------|----|---------------------|
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 238 | * | * | * | 53.1.29 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 239 | * | * | * | 53.2.5 | 5 | B5両面印刷。本号より題字の飾り変更。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 240 | * | * | * | 53.2.12 | 5 | B5両面印刷。本号より題字の飾り戻る。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 241 | * | * | * | 53.2.19 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 242 | * | * | * | 53.2.26 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 243 | * | * | * | 53.3.5 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 244 | * | * | * | 53.3.12 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 245 | * | * | * | 53.3.19 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 246 | * | * | * | 53.3.26 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 247 | * | * | * | 53.4.2 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 248 | * | * | * | 53.4.9 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 249 | * | * | * | 53.4.16 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 250 | * | * | * | 53.4.23 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 251 | * | * | * | 53.4.30 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 252 | * | * | * | 53.5.7 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 253 | * | * | * | 53.5.14 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 254 | * | * | * | 53.5.21 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 255 | * | * | * | 53.5.28 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 256 | * | * | * | 53.6.4 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 257 | * | * | * | 53.6.11 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 258 | * | * | * | 53.6.18 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 259 | * | * | * | 53.6.25 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 260 | * | * | * | 53.7.2 | 5 | B5両面印刷。 |
| 《霊交 自二六一号至三〇八号》 | | | | | | |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 261 | * | * | * | 53.7.9 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 262 | * | * | * | 53.7.16 | 2 | B5両面印刷。 |

| タイトル | 編著者 | 発行者 | 発行所 | 発行年月日 | 点数 | 備考 |
|----------------------|-----|-----|-----|----------|----|--------------------|
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 263 | * | * | * | 53.7.23 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 264 | * | * | * | 53.7.30 | 3 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 265 | * | * | * | 53.8.6 | 3 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 266 | * | * | * | 53.8.13 | 3 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 267 | * | * | * | 53.8.20 | 3 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 268 | * | * | * | 53.8.27 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 269 | * | * | * | 53.9.3 | 3 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 270 | * | * | * | 53.9.10 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 271 | * | * | * | 53.9.17 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 272 | * | * | * | 53.9.24 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 273 | * | * | * | 53.10.1 | 3 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 274 | * | * | * | 53.10.8 | 3 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 275 | * | * | * | 53.10.15 | 3 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 276 | * | * | * | 53.10.22 | 3 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 277 | * | * | * | 53.10.29 | 3 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 278 | * | * | * | 53.11.5 | 3 | B5両面印刷。手書きによる追記あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 279 | * | * | * | 53.11.12 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 280 | * | * | * | 53.11.19 | 3 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 281 | * | * | * | 53.11.26 | 3 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 282 | * | * | * | 53.12.3 | 3 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 283 | * | * | * | 53.12.10 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 284 | * | * | * | 53.12.17 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 285 | * | * | * | 53.12.24 | 5 | B5両面印刷。 |

| タイトル | 編著者 | 発行者 | 発行所 | 発行年月日 | 点数 | 備考 |
|----------------------|-----|-----|-----|----------|----|---|
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 286 | * | * | * | 53.12.31 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 287 | * | * | * | 54.1.7 | 5 | B5両面印刷。長田穂波「ラザロ死せり」の『近代日本キリスト教文学全集』収録の報告記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 288 | * | * | * | 54.1.14 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 289 | * | * | * | 54.1.21 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 290 | * | * | * | 54.1.28 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 291 | * | * | * | 54.2.4 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 292 | * | * | * | 54.2.11 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 293 | * | * | * | 54.2.18 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 294 | * | * | * | 54.2.25 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 295 | * | * | * | 54.3.4 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 296 | * | * | * | 54.3.11 | 2 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 297 | * | * | * | 54.3.18 | 3 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 298 | * | * | * | 54.3.25 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 299 | * | * | * | 54.4.1 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 300 | * | * | * | 54.4.8 | 3 | B5両面印刷。300号発行の報告記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 301 | * | * | * | 54.4.15 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 302 | * | * | * | 54.4.22 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 303 | * | * | * | 54.4.29 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 304 | * | * | * | 54.5.6 | 3 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 305 | * | * | * | 54.5.13 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 306 | * | * | * | 54.5.20 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 307 | * | * | * | 54.5.27 | 2 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 308 | * | * | * | 54.6.3 | 5 | B5両面印刷。 |
| 《霊交 自三〇九号至三四〇号》 | | | | | | |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 309 | * | * | * | 54.6.10 | 5 | B5両面印刷。 |

| タイトル | 編著者 | 発行者 | 発行所 | 発行年月日 | 点数 | 備考 |
|---------------------|-----|-----|-----|----------|----|---|
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.310 | * | * | * | 54.6.17 | 4 | B5両面印刷。元技官植村許子召天の報告記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.311 | * | * | * | 54.6.24 | 4 | B5両面印刷。元技官植村許子召天30日記念会の告知記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.312 | * | * | * | 54.7.1 | 4 | B5両面印刷。元技官植村許子召天30日記念会の告知記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.313 | * | * | * | 54.7.8 | 3 | B5両面印刷。石本俊市「わたしたちの国籍は天にある」、元技官植村許子召天30日記念会の報告記事、あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.314 | * | * | * | 54.7.15 | 3 | B5両面印刷。霊交会訪問者用宿泊施設建設についての記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.315 | * | * | * | 54.7.22 | 4 | B5両面印刷。霊交会訪問者用宿泊施設建設についての記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.316 | * | * | * | 54.7.29 | 5 | B5両面印刷。霊交会訪問者用宿泊施設建設用地決定の報告記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.317 | * | * | * | 54.8.5 | 5 | B5両面印刷。霊交会訪問者用宿泊施設建設についての記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.318 | * | * | * | 54.8.12 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.319 | * | * | * | 54.8.19 | 5 | B5両面印刷。霊交会訪問者用宿泊施設建設についての記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.320 | * | * | * | 54.8.26 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.321 | * | * | * | 54.9.2 | 4 | B5両面印刷。霊交会訪問者用宿泊施設建設についての記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.322 | * | * | * | 54.9.9 | 5 | B5両面印刷。霊交会訪問者用宿泊施設建設についての記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.323 | * | * | * | 54.9.16 | 3 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.324 | * | * | * | 54.9.23 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.325 | * | * | * | 54.9.30 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.326 | * | * | * | 54.10.7 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.327 | * | * | * | 54.10.14 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.328 | * | * | * | 54.10.21 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.329 | * | * | * | 54.10.28 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.330 | * | * | * | 54.11.4 | 4 | B5両面印刷。小島誠志の石本俊市告別式辞、石本俊市召天の報告記事、あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.331 | * | * | * | 54.11.11 | 6 | B5両面印刷。石本俊市召天30日記念会の告知記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.332 | * | * | * | 54.11.18 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.333 | * | * | * | 54.11.25 | 5 | B5両面印刷。石本俊市召天30日記念会の告知記事、霊交会訪問者用宿泊施設建設工事の報告記事、あり。 |

| タイトル | 編著者 | 発行者 | 発行所 | 発行年月日 | 点数 | 備考 |
|---------------------|-----|-----|-----|----------|----|---|
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.334 | * | * | * | 54.12.2 | 5 | B5両面印刷。河野進「石本俊市兄を偲んで」、石本俊市召天の記事掲載の『らい園教会新聞』受贈の報告記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.335 | * | * | * | 54.12.9 | 5 | B5両面印刷。霊交会訪問者用宿泊施設建設工事の報告記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.336 | * | * | * | 54.12.16 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.337 | * | * | * | 54.12.23 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.338 | * | * | * | 54.12.30 | 5 | B5両面印刷。霊交会訪問者用宿泊施設（霊交荘と名称決定）建設工事の報告記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.339 | * | * | * | 55.1.6 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.340 | * | * | * | 55.1.13 | 5 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.341 | * | * | * | 55.1.20 | 6 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.342 | * | * | * | 55.1.27 | 5 | B5両面印刷。霊交荘建設工事の報告記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.343 | * | * | * | 55.2.3 | 5 | B5両面印刷。霊交荘の備品受贈の報告記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.344 | * | * | * | 55.2.10 | 4 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.345 | * | * | * | 55.2.17 | 6 | B5両面印刷。霊交会盲信徒グループ（つのぶえ会）代表決定の報告記事あり。 |
| 《霊交会》 | | | | | | |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.274 | * | * | * | 53.10.8 | 1 | B5両面印刷。前出（重複保管）。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.275 | * | * | * | 53.10.15 | 1 | B5両面印刷。前出（重複保管）。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.276 | * | * | * | 53.10.22 | 1 | B5両面印刷。前出（重複保管）。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.277 | * | * | * | 53.10.29 | 1 | B5両面印刷。前出（重複保管）。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.278 | * | * | * | 53.11.5 | 1 | B5両面印刷。手書きによる追記あり。前出（重複保管）。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.279 | * | * | * | 53.11.12 | 1 | B5両面印刷。前出（重複保管）。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.280 | * | * | * | 53.11.19 | 1 | B5両面印刷。前出（重複保管）。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.281 | * | * | * | 53.11.26 | 1 | B5両面印刷。前出（重複保管）。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.282 | * | * | * | 53.12.3 | 1 | B5両面印刷。前出（重複保管）。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.284 | * | * | * | 53.12.17 | 1 | B5両面印刷。前出（重複保管）。 |
| 1978年クリスマス礼拝（プログラム） | * | * | * | * | 1 | 12月19日午後1時30分～3時開催。 |

| タイトル | 編著者 | 発行者 | 発行所 | 発行年月日 | 点数 | 備考 |
|---------------------|-----|-----|-----|----------|----|---|
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.285 | * | * | * | 53.12.24 | 1 | B5両面印刷。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.286 | * | * | * | 53.12.31 | 1 | B5両面印刷。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.287 | * | * | * | 54.1.7 | 1 | B5両面印刷。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.288 | * | * | * | 54.1.14 | 1 | B5両面印刷。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.289 | * | * | * | 54.1.21 | 1 | B5両面印刷。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.290 | * | * | * | 54.1.28 | 1 | B5両面印刷。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.291 | * | * | * | 54.2.4 | 1 | B5両面印刷。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.293 | * | * | * | 54.2.18 | 1 | B5両面印刷。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.294 | * | * | * | 54.2.25 | 1 | B5両面印刷。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.295 | * | * | * | 54.3.4 | 1 | B5両面印刷。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.296 | * | * | * | 54.3.11 | 1 | B5両面印刷。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.297 | * | * | * | 54.3.18 | 1 | B5両面印刷。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.298 | * | * | * | 54.3.25 | 1 | B5両面印刷。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.301 | * | * | * | 54.4.15 | 1 | B5両面印刷。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.302 | * | * | * | 54.4.22 | 1 | B5両面印刷。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.303 | * | * | * | 54.4.29 | 1 | B5両面印刷。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.304 | * | * | * | 54.5.6 | 1 | B5両面印刷。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.305 | * | * | * | 54.5.13 | 1 | B5両面印刷。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.306 | * | * | * | 54.5.20 | 1 | B5両面印刷。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.307 | * | * | * | 54.5.27 | 1 | B5両面印刷。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.308 | * | * | * | 54.6.3 | 1 | B5両面印刷。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.309 | * | * | * | 54.6.10 | 1 | B5両面印刷。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.310 | * | * | * | 54.6.17 | 1 | B5両面印刷。元技官植村許子の召天の報告記事あり。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.311 | * | * | * | 54.6.24 | 1 | B5両面印刷。元技官植村許子召天30日記念会の告知記事あり。前出(重複保管)。 |

| タイトル | 編著者 | 発行者 | 発行所 | 発行年月日 | 点数 | 備考 |
|---------------------|-----|-----|-----|----------|----|---|
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.312 | * | * | * | 54.7.1 | 1 | B5両面印刷。元技官植村許子召天30日記念会の告知記事あり。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.315 | * | * | * | 54.7.22 | 1 | B5両面印刷。霊交会訪問者用宿泊施設建設についての記事あり。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.313 | * | * | * | 54.7.8 | 1 | B5両面印刷。元技官植村許子召天30日記念会の報告記事あり。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.314 | * | * | * | 54.7.15 | 1 | B5両面印刷。霊交会訪問者用宿泊施設建設についての記事あり。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.315 | * | * | * | 54.7.22 | 1 | B5両面印刷。霊交会訪問者用宿泊施設建設についての記事あり。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.316 | * | * | * | 54.7.29 | 1 | B5両面印刷。霊交会訪問者用宿泊施設建設用地決定の報告記事あり。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.317 | * | * | * | 54.8.5 | 1 | B5両面印刷。霊交会訪問者用宿泊施設建設についての記事あり。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.318 | * | * | * | 54.8.12 | 1 | B5両面印刷。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.320 | * | * | * | 54.8.26 | 1 | B5両面印刷。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.322 | * | * | * | 54.9.9 | 1 | B5両面印刷。霊交会訪問者用宿泊施設建設についての記事あり。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.321 | * | * | * | 54.9.2 | 1 | B5両面印刷。霊交会訪問者用宿泊施設建設についての記事あり。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.322 | * | * | * | 54.9.9 | 1 | B5両面印刷。霊交会訪問者用宿泊施設建設についての記事あり。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.324 | * | * | * | 54.9.23 | 1 | B5両面印刷。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.325 | * | * | * | 54.9.30 | 1 | B5両面印刷。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.326 | * | * | * | 54.10.7 | 1 | B5両面印刷。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.327 | * | * | * | 54.10.14 | 1 | B5両面印刷。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.328 | * | * | * | 54.10.21 | 1 | B5両面印刷。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.329 | * | * | * | 54.10.28 | 1 | B5両面印刷。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.330 | * | * | * | 54.11.4 | 1 | B5両面印刷。小島誠志の石本俊市告別式辞、石本俊市召天の報告記事、あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.331 | * | * | * | 54.11.11 | 1 | B5両面印刷。石本俊市召天30日記念会の告知記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.332 | * | * | * | 54.11.18 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.333 | * | * | * | 54.11.25 | 1 | B5両面印刷。石本俊市召天30日記念会の告知記事、霊交会訪問者用宿泊施設建設工事の報告記事、あり。 |

| タイトル | 編著者 | 発行者 | 発行所 | 発行年月日 | 点数 | 備考 |
|---------------------|-----|-----|-----|----------|----|--|
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.334 | * | * | * | 54.12.2 | 1 | B5両面印刷。河野進「石本俊市兄を偲んで」、石本俊市召天の記事掲載の『らい園教会新聞』受贈の報告記事、あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.335 | * | * | * | 54.12.9 | 1 | B5両面印刷。霊交会訪問者用宿泊施設建設工事の報告記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.336 | * | * | * | 54.12.16 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.337 | * | * | * | 54.12.23 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.338 | * | * | * | 54.12.30 | 1 | B5両面印刷。霊交会訪問者用宿泊施設（霊交荘と名称決定）建設工事の報告記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.339 | * | * | * | 55.1.6 | 1 | B5両面印刷。前出（重複保管）。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.340 | * | * | * | 55.1.13 | 1 | B5両面印刷。前出（重複保管）。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.341 | * | * | * | 55.1.20 | 1 | B5両面印刷。前出（重複保管）。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.342 | * | * | * | 55.1.27 | 1 | B5両面印刷。霊交荘建設工事の報告記事あり。前出（重複保管）。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.343 | * | * | * | 55.2.3 | 1 | B5両面印刷。霊交荘の備品受贈の報告記事あり。前出（重複保管）。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.344 | * | * | * | 55.2.10 | 1 | B5両面印刷。前出（重複保管）。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.345 | * | * | * | 55.2.17 | 1 | B5両面印刷。霊交会盲信徒グループ（つのぶえ会）代表決定の報告記事あり。前出（重複保管）。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.272 | * | * | * | 53.9.24 | 1 | B5両面印刷。前出（重複保管）。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.273 | * | * | * | 53.10.1 | 1 | B5両面印刷。前出（重複保管）。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.346 | * | * | * | 55.2.24 | 1 | B5両面印刷。霊交荘工事の報告記事、『青松』故石本俊市兄追悼特集号の発行・頒布の告知記事、あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.347 | * | * | * | 55.3.2 | 1 | B5両面印刷。霊交荘工事の報告記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.348 | * | * | * | 55.3.9 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.349 | * | * | * | 55.3.16 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.350 | * | * | * | 55.3.23 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.351 | * | * | * | 55.3.30 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.352 | * | * | * | 55.4.6 | 1 | B5両面印刷。霊交荘落成感謝礼拝の告知記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.353 | * | * | * | 55.4.13 | 1 | B5両面印刷。霊交荘落成感謝礼拝の告知記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.354 | * | * | * | | 0 | 欠号（所在確認できず）。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.355 | * | * | * | 55.4.27 | 1 | B5両面印刷。元技官植村許子召天1周年記念会・霊交荘落成感謝礼拝の告知記事、あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.356 | * | * | * | | 0 | 欠号（所在確認できず）。 |

| タイトル | 編著者 | 発行者 | 発行所 | 発行年月日 | 点数 | 備考 |
|---------------------|-----|-----|-----|----------|----|---|
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.357 | * | * | * | 55.5.11 | 1 | B5両面印刷。霊交荘の使用開始および整備についての記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.358 | * | * | * | 55.5.18 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.359 | * | * | * | 55.5.25 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.360 | * | * | * | 55.6.1 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.361 | * | * | * | 55.6.8 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.362 | * | * | * | 55.6.15 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.363 | * | * | * | 55.6.22 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.364 | * | * | * | 55.6.29 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.365 | * | * | * | 55.7.6 | 1 | B5両面印刷。本号より題字の飾り変更。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.366 | * | * | * | 55.7.13 | 1 | B5両面印刷。焼失した真言宗大師堂への見舞いと火気取扱注意の告知記事、霊交荘整備の報告記事、あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.367 | * | * | * | 55.7.20 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.369 | * | * | * | 55.8.3 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.368 | * | * | * | 55.7.27 | 1 | B5両面印刷。真言宗大師堂再建資金提供の報告記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.370 | * | * | * | 55.8.10 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.371 | * | * | * | 55.8.17 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.372 | * | * | * | 55.8.24 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.373 | * | * | * | 55.8.31 | 1 | B5両面印刷。自治会50年史のための原稿「キリスト教大島霊交会小史」あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.374 | * | * | * | 55.9.7 | 1 | B5両面印刷。石本俊市召天1周年記念会の告知記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.375 | * | * | * | 55.9.14 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.376 | * | * | * | 55.9.21 | 1 | B5両面印刷。石本俊市召天1周年記念会の告知記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.377 | * | * | * | 55.9.28 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.378 | * | * | * | 55.10.5 | 1 | B5両面印刷。石本俊市召天1周年記念会の告知記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.379 | * | * | * | 55.10.12 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.380 | * | * | * | 55.10.19 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.381 | * | * | * | | 0 | 欠号(所在確認できず)。 |

| タイトル | 編著者 | 発行者 | 発行所 | 発行年月日 | 点数 | 備考 |
|----------------------|-----|-----|-----|----------|----|--|
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 382 | * | * | * | 55.11.2 | 1 | B5両面印刷。石本俊市召天1周年記念会の報告記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 383 | * | * | * | 55.11.9 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 384 | * | * | * | 55.11.16 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 385 | * | * | * | 55.11.23 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 386 | * | * | * | 55.11.30 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 387 | * | * | * | 55.12.7 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 388 | * | * | * | 55.12.14 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 389 | * | * | * | | 0 | 欠号(所在確認できず)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 390 | * | * | * | 55.12.28 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 391 | * | * | * | 56.1.4 | 2 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 392 | * | * | * | 56.1.11 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 393 | * | * | * | 56.1.18 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 394 | * | * | * | 56.1.25 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 395 | * | * | * | 56.2.1 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 396 | * | * | * | 56.2.8 | 2 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 397 | * | * | * | 56.2.15 | 1 | B5両面印刷。台湾楽生療養院教会代表の訪問打診の告知記事、自治会50年史『閉ざされた島の昭和史』贈呈・受贈の報告記事、あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 398 | * | * | * | 56.2.22 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 399 | * | * | * | 56.3.1 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 400 | * | * | * | 56.3.8 | 1 | B5両面印刷。自治会50年史の贈呈に対する反応の報告記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 401 | * | * | * | | 0 | 欠号(所在確認できず)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 402 | * | * | * | 56.3.22 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 403 | * | * | * | 56.3.29 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 404 | * | * | * | 56.4.5 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 405 | * | * | * | 56.4.12 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 406 | * | * | * | 56.4.19 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 407 | * | * | * | 56.4.26 | 1 | B5両面印刷。題字表記は「復活」となっている。 |

| タイトル | 編著者 | 発行者 | 発行所 | 発行年月日 | 点数 | 備考 |
|----------------------|-----|-----|-----|----------|----|-------------------------|
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 408 | * | * | * | 56.5.3 | 1 | B5両面印刷。題字表記は「復活」となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 409 | * | * | * | 56.5.10 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 410 | * | * | * | | 0 | 欠号(所在確認できず)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 412 | * | * | * | 56.5.31 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 411 | * | * | * | 56.5.24 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 413 | * | * | * | 56.6.7 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 414 | * | * | * | 56.6.14 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 415 | * | * | * | 56.6.21 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 416 | * | * | * | 56.6.28 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 417 | * | * | * | 56.7.6 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 418 | * | * | * | 56.7.12 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 419 | * | * | * | 56.7.19 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 420 | * | * | * | 56.7.26 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 421 | * | * | * | 56.8.2 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 422 | * | * | * | 56.8.9 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 423 | * | * | * | 56.8.16 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 424 | * | * | * | 56.8.23 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 425 | * | * | * | 56.8.30 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 426 | * | * | * | 56.9.6 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 427 | * | * | * | 56.9.13 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 428 | * | * | * | 56.9.20 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 429 | * | * | * | 56.9.27 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 430 | * | * | * | 56.10.4 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 431 | * | * | * | 56.10.11 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 432 | * | * | * | 56.10.18 | 1 | B5両面印刷。 |

| タイトル | 編著者 | 発行者 | 発行所 | 発行年月日 | 点数 | 備考 |
|----------------------|-----|-----|-----|----------|----|--|
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 433 | * | * | * | 56.10.25 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 434 | * | * | * | 56.11.1 | 1 | B5両面印刷。大阪大学学園祭での講演「ハンセン氏病対策の過去と将来」の告知記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 435 | * | * | * | 56.11.8 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 436 | * | * | * | 56.11.15 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 437 | * | * | * | 56.11.22 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 438 | * | * | * | 56.11.29 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 439 | * | * | * | 56.12.6 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 440 | * | * | * | 56.12.13 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 441 | * | * | * | 56.12.20 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 442 | * | * | * | 56.12.27 | 1 | B5両面印刷。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 443 | * | * | * | 57.1.3 | 1 | B5両面印刷。表記は 433となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 444 | * | * | * | 57.1.10 | 1 | B5両面印刷。表記は 434となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 445 | * | * | * | 57.1.17 | 1 | B5両面印刷。表記は 435となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 446 | * | * | * | 57.1.24 | 1 | B5両面印刷。表記は 436となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 447 | * | * | * | 57.1.31 | 1 | B5両面印刷。表記は 437となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 448 | * | * | * | 57.2.7 | 1 | B5両面印刷。表記は 438となっている。瀬戸内三教会合同礼拝の主催中止の報告記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 449 | * | * | * | 57.2.14 | 1 | B5両面印刷。表記は 439となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 450 | * | * | * | 57.2.21 | 1 | B5両面印刷。表記は 440となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 451 | * | * | * | 57.2.28 | 1 | B5両面印刷。表記は 441となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 452 | * | * | * | 57.3.7 | 1 | B5両面印刷。表記は 442、発行年月日欄には「57.3.77」とある。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 453 | * | * | * | 57.3.14 | 1 | B5両面印刷。表記は 443となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 454 | * | * | * | 57.3.21 | 1 | B5両面印刷。表記は 444となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 455 | * | * | * | 57.3.28 | 1 | B5両面印刷。表記は 445となっている。 |

| タイトル | 編著者 | 発行者 | 発行所 | 発行年月日 | 点数 | 備考 |
|---------------------|-----|-----|-----|---------|----|---|
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.456 | * | * | * | 57.4.4 | 1 | B5両面印刷。表記は 446となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.457 | * | * | * | | 0 | 欠号(所在確認できず)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.458 | * | * | * | 57.4.18 | 1 | B5両面印刷。表記は 448となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.454 | * | * | * | 57.3.21 | 1 | B5両面印刷。表記は 444となっている。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.448 | * | * | * | 57.2.7 | 1 | B5両面印刷。表記は 438となっている。瀬戸内三教会合同礼拝の主催中止の報告記事あり。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.459 | * | * | * | | 0 | 欠号(所在確認できず)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.460 | * | * | * | 57.5.2 | 1 | B5両面印刷。表記は 450となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.461 | * | * | * | | 0 | 欠号(所在確認できず)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.462 | * | * | * | 57.5.16 | 1 | B5両面印刷。表記は 452となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.463 | * | * | * | 57.5.23 | 1 | B5両面印刷。表記は 453となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.464 | * | * | * | 57.5.30 | 1 | B5両面印刷。表記は 454となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.466 | * | * | * | 57.6.13 | 1 | B5両面印刷。表記は 456となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.467 | * | * | * | 57.6.20 | 1 | B5両面印刷。表記は 457となっている。会員高齢化にともなう乗用車調達案についての記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.468 | * | * | * | 57.6.27 | 1 | B5両面印刷。表記は 458となっている。会員高齢化にともなう乗用車調達案についての記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.469 | * | * | * | 57.7.4 | 1 | B5両面印刷。表記は 459となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.470 | * | * | * | 57.7.11 | 1 | B5両面印刷。表記は 460となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.471 | * | * | * | 57.7.18 | 1 | B5両面印刷。表記は 461となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.465 | * | * | * | 57.6.6 | 1 | B5両面印刷。表記は 455となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.472 | * | * | * | 57.7.25 | 1 | B5両面印刷。表記は 462となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.473 | * | * | * | 57.8.1 | 1 | B5両面印刷。表記は 463となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.474 | * | * | * | 57.8.8 | 1 | B5両面印刷。表記は 464となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.475 | * | * | * | 57.8.15 | 1 | B5両面印刷。表記は 465となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.476 | * | * | * | 57.8.22 | 1 | B5両面印刷。表記は 466となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.477 | * | * | * | 57.8.29 | 1 | B5両面印刷。表記は 467となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.478 | * | * | * | 57.9.5 | 1 | B5両面印刷。表記は 468となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.479 | * | * | * | 57.9.12 | 1 | B5両面印刷。表記は 469となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.478 | * | * | * | 57.9.5 | 1 | B5両面印刷。表記は 468となっている。前出(重複保管)。 |

| タイトル | 編著者 | 発行者 | 発行所 | 発行年月日 | 点数 | 備考 |
|----------------------|-----|-----|-----|----------|----|--|
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 480 | * | * | * | 57.9.19 | 1 | B5両面印刷。表記は 470となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 481 | * | * | * | 57.9.26 | 1 | B5両面印刷。表記は 471となっている。霊交会創立68周年記念礼拝の告知記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 482 | * | * | * | 57.10.3 | 1 | B5両面印刷。表記は 472となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 483 | * | * | * | 57.10.10 | 1 | B5両面印刷。表記は 473となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 484 | * | * | * | 57.10.17 | 1 | B5両面印刷。表記は 474となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 485 | * | * | * | 57.10.24 | 1 | B5両面印刷。表記は 475となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 486 | * | * | * | 57.10.31 | 1 | B5両面印刷。表記は 476となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 487 | * | * | * | 57.11.7 | 1 | B5両面印刷。表記は 477となっている。霊交会創立68周年記念礼拝の告知記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 498 | * | * | * | 58.1.23 | 1 | B5両面印刷。表記は 488となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 488 | * | * | * | | 0 | 欠号(所在確認できず)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 489 | * | * | * | 57.11.21 | 1 | B5両面印刷。表記は 479となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 490 | * | * | * | 57.11.28 | 1 | B5両面印刷。表記は 480となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 491 | * | * | * | | 0 | 欠号(所在確認できず)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 492 | * | * | * | 57.12.12 | 1 | B5両面印刷。表記は 482となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 493 | * | * | * | 57.12.19 | 1 | B5両面印刷。表記は 483となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 494 | * | * | * | 57.12.26 | 1 | B5両面印刷。表記は 484となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 495 | * | * | * | 58.1.2 | 1 | B5両面印刷。表記は 485となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 496 | * | * | * | 58.1.9 | 1 | B5両面印刷。表記は 486となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 497 | * | * | * | 58.1.16 | 1 | B5両面印刷。表記は 487となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 498 | * | * | * | 58.1.23 | 1 | B5両面印刷。表記は 488となっている。前出(重複保管)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 499 | * | * | * | | 0 | 欠号(所在確認できず)。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 500 | * | * | * | 58.2.6 | 1 | B5両面印刷。表記は 490となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 501 | * | * | * | 58.2.13 | 1 | B5両面印刷。表記は 491となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 502 | * | * | * | 58.2.20 | 1 | B5両面印刷。表記は 492となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No. 503 | * | * | * | 58.2.27 | 1 | B5両面印刷。表記は 493となっている。 |

| タイトル | 編著者 | 発行者 | 発行所 | 発行年月日 | 点数 | 備考 |
|---------------------|-----|-----|-----|---------|----|----------------------|
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.504 | * | * | * | 58.3.6 | 1 | B5両面印刷。表記は494となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.505 | * | * | * | 58.3.13 | 1 | B5両面印刷。表記は495となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.506 | * | * | * | 58.3.20 | 1 | B5両面印刷。表記は496となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.507 | * | * | * | 58.3.27 | 1 | B5両面印刷。表記は497となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.508 | * | * | * | 58.4.3 | 1 | B5両面印刷。表記は498となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.509 | * | * | * | 58.4.10 | 1 | B5両面印刷。表記は499となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.510 | * | * | * | 58.4.17 | 1 | B5両面印刷。表記は500となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.511 | * | * | * | 58.4.24 | 1 | B5両面印刷。表記は501となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.512 | * | * | * | 58.5.1 | 1 | B5両面印刷。表記は502となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.513 | * | * | * | 58.5.8 | 1 | B5両面印刷。表記は503となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.514 | * | * | * | 58.5.15 | 1 | B5両面印刷。表記は504となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.515 | * | * | * | 58.5.22 | 1 | B5両面印刷。表記は505となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.516 | * | * | * | 58.5.29 | 1 | B5両面印刷。表記は506となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.517 | * | * | * | 58.6.5 | 1 | B5両面印刷。表記は507となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.518 | * | * | * | 58.6.12 | 1 | B5両面印刷。表記は508となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.519 | * | * | * | 58.6.19 | 1 | B5両面印刷。表記は509となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.520 | * | * | * | 58.6.26 | 1 | B5両面印刷。表記は510となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.521 | * | * | * | 58.7.3 | 1 | B5両面印刷。表記は511となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.522 | * | * | * | 58.7.10 | 1 | B5両面印刷。表記は512となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.523 | * | * | * | 58.7.17 | 1 | B5両面印刷。表記は513となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.524 | * | * | * | 58.7.24 | 1 | B5両面印刷。表記は514となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.525 | * | * | * | 58.7.31 | 1 | B5両面印刷。表記は515となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.526 | * | * | * | 58.8.7 | 1 | B5両面印刷。表記は516となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.527 | * | * | * | 58.8.14 | 1 | B5両面印刷。表記は517となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.528 | * | * | * | 58.8.21 | 1 | B5両面印刷。表記は518となっている。 |

| タイトル | 編著者 | 発行者 | 発行所 | 発行年月日 | 点数 | 備考 |
|---------------------|-----|-----|-----|----------|----|--|
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.529 | * | * | * | 58.8.28 | 1 | B5両面印刷。表記は519となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.530 | * | * | * | 58.9.4 | 1 | B5両面印刷。表記は520となっている。手書きによる追記あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.531 | * | * | * | 58.9.11 | 1 | B5両面印刷。表記は521となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.532 | * | * | * | 58.9.18 | 1 | B5両面印刷。表記は522となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.533 | * | * | * | 58.9.25 | 1 | B5両面印刷。表記は523となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.534 | * | * | * | 58.10.2 | 1 | B5両面印刷。表記は524となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.535 | * | * | * | 58.10.9 | 1 | B5両面印刷。表記は525となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.536 | * | * | * | 58.10.16 | 1 | B5両面印刷。表記は526となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.537 | * | * | * | 58.10.23 | 1 | B5両面印刷。表記は527となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.538 | * | * | * | 58.10.30 | 1 | B5両面印刷。表記は528となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.539 | * | * | * | 58.11.6 | 1 | B5両面印刷。表記は529となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.540 | * | * | * | 58.11.13 | 1 | B5両面印刷。表記は530となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.541 | * | * | * | 58.11.20 | 1 | B5両面印刷。表記は531となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.542 | * | * | * | 58.11.27 | 1 | B5両面印刷。表記は532となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.543 | * | * | * | 58.12.4 | 1 | B5両面印刷。表記は533となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.544 | * | * | * | 58.12.11 | 1 | B5両面印刷。表記は534となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.545 | * | * | * | 58.12.18 | 1 | B5両面印刷。表記は535となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.546 | * | * | * | 58.12.25 | 1 | B5両面印刷。表記は536となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.547 | * | * | * | 59.1.1 | 1 | B5両面印刷。表記は537となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.548 | * | * | * | 59.1.8 | 1 | B5両面印刷。表記は538となっている。書き込みあり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.549 | * | * | * | 59.1.15 | 1 | B5両面印刷。表記は539となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.550 | * | * | * | 59.1.22 | 1 | B5両面印刷。表記は540となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.551 | * | * | * | 59.1.29 | 1 | B5両面印刷。表記は541となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.552 | * | * | * | 59.2.5 | 1 | B5両面印刷。表記は542となっている。大島青松園盲人会50年史『わたしはここに生きた』発刊の告知記事あり。 |

| タイトル | 編著者 | 発行者 | 発行所 | 発行年月日 | 点数 | 備考 |
|---------------------|-----|-----|-----|-------------|----|--|
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.553 | * | * | * | 59.2.1 2 | 1 | B5両面印刷。表記は543となっている。霊交会役員未決定についての記事あり。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.554 | * | * | * | 59.2.1 9 | 1 | B5両面印刷。表記は544となっている。 |
| 大島霊交会週報 霊交復刊 No.555 | * | * | * | 59.2.2 6 | 1 | B5両面印刷。表記は545となっている。 |

【凡例】

本目録は、『大島霊交会週報 霊交 復刊』を、大島霊交会図書室が保存しているファイルごとに、かつファイルされている順に、一覧化したものである。

したがって、タイトルはかならずしも発行順には並んでいない(《 》はファイルのタイトルをあらわしている)。

欠号のタイトルも表記し、備考欄に「欠号(所在確認できず)」と表記している。

同一タイトルが複数部続けてファイルされている場合には、その点数を表記し、別所にファイルされている場合には、備考欄に「前出(重複保管)」と表記している。

第433号以降は、発行日の異なる2種類が存在するため、第442号に続いて発行された第433号を「第443号」と表記し、以下も10号ずつ繰り上げて表記している。